伊予の四国遍路ガイドブック

菩提の道場・愛媛の札所26ヶ寺めぐり

歩いてみよう
遍路道

伊予の四国遍路ガイドブック

菩提の道場・愛媛の札所 26 ヶ寺めぐり

■表紙写真

第 57 番札所　栄福寺

第 60 番札所　横峰寺

第 43 番札所　明石寺

松山市北条　立岩川

はじめに

四国八十八ケ所霊場を巡る四国遍路は、弘法大師・空海が修行のために四国を巡った足跡を辿って四国を一周する計１４００㌔（歩き遍路は約１２００㌔）に及ぶ巡拝の道であり、また、地域の貴重な文化遺産でもあります。平成26年は四国遍路開創１２００年として、四国各地で記念行事が催され、遍路をする人も増えたようです。また、平成27年には、四国遍路が日本遺産に認定され、さらに注目を浴びたところです。

さらに、ニューヨークタイムズ紙が世界中から選ぶ「２０１５年に行くべき世界の52ケ所」に、日本で唯一「四国」が選ばれ、開創１２００年となる四国八十八ヶ所霊場のお遍路さんと八十八ヶ所霊場について紹介しています。四国遍路は世界的にその存在が知られるようになり、世界一安全に歩けるトレイルとして人気が高まり、札所において外国人の姿をよく見かけるようになってきました。なお、同紙に代表的スポットとして写真が掲載されたのは、45番札所の岩屋寺でした。

また、地元愛媛大学に「四国遍路・世界の巡礼研究センター」が開設されたり、57番札所栄福寺のご住職が書かれた本が映画化され、また、歩き遍路が心身の健康に良い影響を与えるとの研究成果が報道されるなど、最近は四国八十八ケ所に関する話題に事欠きません。

遍路は年配の方が巡るものというイメージが強いと思いますが、若い人にもぜひ興味を持っていただき、歩き遍路を体験してもらいたい、そして、ひいては、四国遍路の世界遺産化への気運を盛り上げていただきたいというそんな思いからこの冊子を作成しました。

多くの方に四国八十八ケ所と遍路文化に興味を持っていただき、この歴史ある遍路道を歩いていただけたら幸いです。

平成28年7月

公益財団法人 えひめ地域政策研究センター

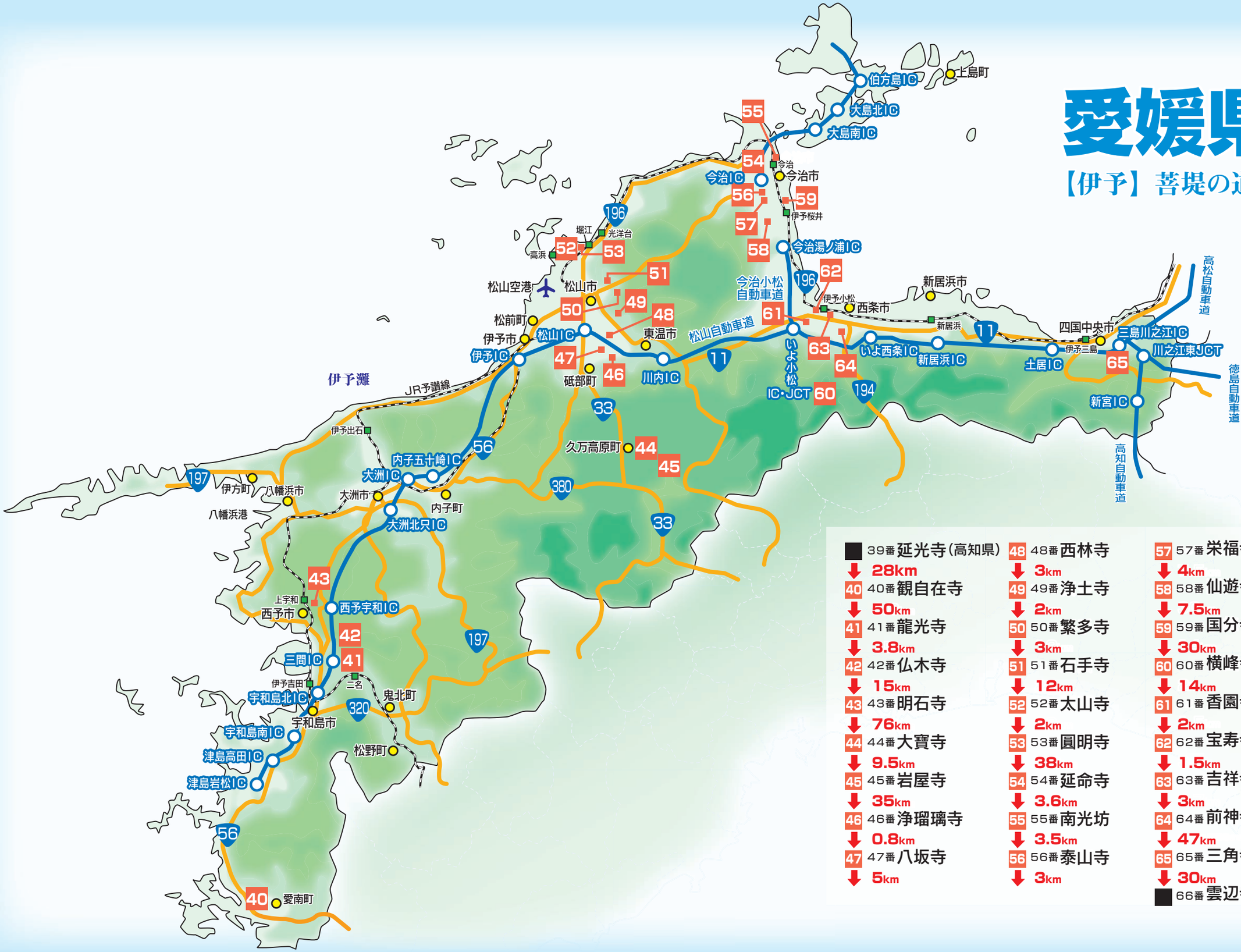
目　次

菩提の道場・愛媛の札所26ケ寺めぐり

はじめに …… 1
地　図（愛媛県全体図） …… 3
四国遍路の由来（歴史） …… 5
知っておきたい参拝の作法 …… 6
第40番札所　観自在寺 …… 7
第41番札所　龍光寺 …… 9
第42番札所　仏木寺 …… 11
第43番札所　明石寺 …… 13
遍路道ギャラリー春夏編 …… 15
第44番札所　大寶寺 …… 17
第45番札所　岩屋寺 …… 19
第46番札所　浄瑠璃寺 …… 21
第47番札所　八坂寺 …… 23
四国遍路の開祖・衛門三郎伝説 …… 25
第48番札所　西林寺 …… 27
第49番札所　浄土寺 …… 29
第50番札所　繁多寺 …… 31
第51番札所　石手寺 …… 33
松山平野1日歩き遍路コース …… 35
第52番札所　太山寺 …… 37
第53番札所　圓明寺 …… 39
第54番札所　延命寺 …… 41
第55番札所　南光坊 …… 43
第56番札所　泰山寺 …… 45
第57番札所　栄福寺 …… 47
第58番札所　仙遊寺 …… 49
第59番札所　国分寺 …… 51
遍路道ギャラリー秋冬編 …… 53
第60番札所　横峰寺 …… 55
第61番札所　香園寺 …… 57
第62番札所　宝寿寺 …… 59
第63番札所　吉祥寺 …… 61
第64番札所　前神寺 …… 63
第65番札所　三角寺 …… 65

愛媛県

【伊予】菩提の道場



■ 39番 延光寺（高知県）	48 48番 西林寺	57 57番 栄福寺
↓ 28km	↓ 3km	↓ 4km
40 40番 観自在寺	49 49番 浄土寺	58 58番 仙遊寺
↓ 50km	↓ 2km	↓ 7.5km
41 41番 龍光寺	50 50番 繁多寺	59 59番 国分寺
↓ 3.8km	↓ 3km	↓ 30km
42 42番 仏木寺	51 51番 石手寺	60 60番 横峰寺
↓ 15km	↓ 12km	↓ 14km
43 43番 明石寺	52 52番 太山寺	61 61番 香園寺
↓ 76km	↓ 2km	↓ 2km
44 44番 大寶寺	53 53番 圓明寺	62 62番 宝寿寺
↓ 9.5km	↓ 38km	↓ 1.5km
45 45番 岩屋寺	54 54番 延命寺	63 63番 吉祥寺
↓ 35km	↓ 3.6km	↓ 3km
46 46番 浄瑠璃寺	55 55番 南光坊	64 64番 前神寺
↓ 0.8km	↓ 3.5km	↓ 47km
47 47番 八坂寺	56 56番 泰山寺	65 65番 三角寺
↓ 5km	↓ 3km	↓ 30km
		■ 66番 雲辺寺（香川県）

※ 40 は札所の番号です

四国遍路の由来（歴史）

四国遍路は、弘法大師・空海（７７４年～８３５年）が修行のために歩いた足跡を辿って四国を一周し、八十八ヶ所の寺院を参拝する計１４００キロに及ぶ巡拝の道です。

四国遍路がいつ頃始まったかについては、平安時代には霊場が開かれ、その頃から修行僧が四国を歩いていたことは確かなようです。その後、江戸時代に、庶民が観光を兼ねて四国霊場を巡ることが広がっていったと言われています。

霊場のお寺の数がなぜ八十八ケ所なのかは、諸説があるようです。88の霊場と弘法大師とゆかりのある別格20霊場を合わせると108の煩悩の数になるという説、男42歳、女33歳、子供13歳の各厄年を合わせた数という説、またわれわれの命の糧「米」を分解したという説などもありますが、明確にはわかっていないようです。

四国八十八ケ所霊場の寺院を「札所（ふだしょ）」と呼びますが、これは、昔は参拝するときに自分の名前を書いた木の「納札（おさめふだ）」を寺の柱に打ち付けたことに由来し、このため札所に参拝することを「打つ」と言います。

札所の番号順に四国を時計回りに巡ることを「順打ち」、反時計回りに巡ることを「逆打ち」と言います。「逆打ち」は「順打ち」の三回分のご利益・功徳があると言われています。逆打ちを始めたのが「うるう年」だったという伝説があり、「うるう年」に「逆打ち」をすると、弘法大師に出会えるという伝説もあり、うるう年は逆打ちをするお遍路さんが多くなります。

また、八十八ケ所を一回で全部歩いて巡ることを「通し打ち」、今回は一番札所から八番札所までというふうに何回にも分けて部分的にお参りすることを「区切り打ち」、一つの県を一国として回るのを「一国参り」と言います。通し打ちは時間と体力と費用がかかります。初心者はまず「区切り打ち」から始めるのが無難です。

現在では、遍路を始めるきっかけは、信仰のため、健康のため、自分探しのため、自然の中を歩くロングトレイルのウォーキングとしてなど、その動機はさまざまです。

知っておきたい参拝の作法

① 山門で一礼する

●山門で合掌して一礼、帰りも同様に行う。
●仁王門の場合は、左右の仁王像に一礼する。

② 手水場（ちょうずば）で手 口を清める

●左手→右手→口の順で清める。
●柄杓（ひしゃく）の柄（え）を清める。

③ 鐘をつく

●鐘をつく
（自由に鐘をついてよいお寺のみ）。
●早朝や夜はつかない。
●参拝後は縁起が悪いのでつかない。

④ 本堂でろうそくと線香をあげる

●ろうそく（1 本）と線香（3 本）をあげる。
●ろうそくは上段から順に、線香は中央から立てる。

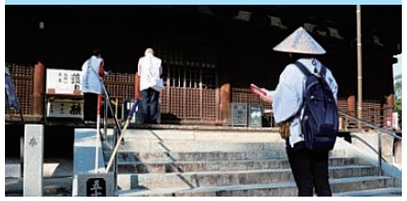
⑤ 鰐口（わにぐち）を鳴らす

●訪れたことを仏様に告げるため、1 回鳴らす。

⑥ 納札を納める

●前もって納札に日付、住所、氏名、願い事を記入し、納札箱に納める。写経があれば写経箱に納める。
●お賽銭をあげる。

⑦ 読経する

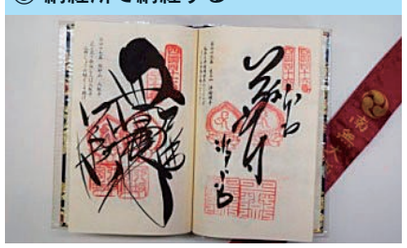


●数珠を持っている場合は、3 回擦り合わせる。
●合掌三礼する。
●お経は経本を手にして唱える。
●読み終わったら、合掌一礼する。

⑧ 大師堂にお参り

●本堂と同様にお参りをする。

⑨ 納経所で納経する



●納経帳にご朱印をいただく。
●渡すときも受け取るときも両手で。

第40番札所

平城山 薬師院 観自在寺

へいじょうざん やくしいん かんじざいじ

天皇家ゆかりの深い寺は「四国霊場の裏関所」

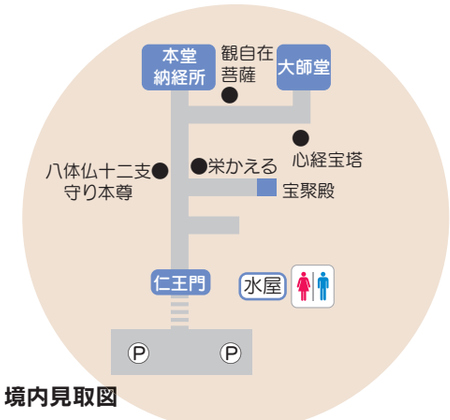
第1番札所・霊山寺から一番遠いため「四国霊場の裏関所」といわれている。

大同2年（807）、平城天皇の勅願所として弘法大師が一本の霊木から本尊の薬師如来、脇侍の阿弥陀如来と十一面観世音菩薩像の三体を刻み安置し、開基したといわれている。

大師堂の廻りには四国八十八ヶ所の各霊場の砂が敷かれており、その廻りを歩くと四国霊場のお砂めぐりができる。

仁王門は約200年前に建立された総ケヤキ造り。天井には十二支の方位盤が掛けられている。門をくぐると水をかけて願いを成就させる十二支守り本尊の八体仏がある。

仁王門から本堂への途中に、3匹のかえるの石像「栄かえる」がある。これを撫でると「親子孫と三(栄)かえる」「お金がかえる」「福がかえる」「病気が引かえる」のご利益があるといわれている。



境内見取図

境内の八体仏

宗　派	真言宗大覚寺派		
開　基	弘法大師	本　尊	薬師如来
御詠歌	心願や 自在の春に花咲きて 浮世のがれて 住むやけだもの		
真　言	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか		
住　所	南宇和郡愛南町御荘平城 2253－1		
電　話	0895-72-0416		
駐車場	10台（無料）	宿　坊	あり（20人、食事なし）
交　通	車／宇和島道路津島岩松ICから国道56号を宿毛方面へ約40分 鉄道／JR予讃線宇和島駅から車で約50分 バス／宇和島バス宇和島～城辺線平城札所前下車徒歩約5分		

アクセスマップ

大師堂

仁王門の天井にある十二支方位盤

約200年前に建立された仁王門

栄かえる

境内

ちょっと寄り道

柏坂

柏坂は宇和海に面した愛南町柏集落から宇和島市津島町までの峠越えの山道である。「つわな奥展望台」からは、由良半島や宇和海の島々を見渡すことができる。

住：南宇和郡愛南町柏390番地 DE･あ･い･21
☎：0895-85-1021 愛南町役場 DE･あ･い･21

松尾峠

土佐と伊予の境にある峠でかつての主要な街道である。峠の頂上から少し歩くと藤原純友の城址があり、展望台からは、宿毛湾を見渡すことができる。

住：高知県宿毛市
☎：0880-63-1119 宿毛市商工観光課

篠山

標高1065㍍の篠山は、古くから山岳信仰の霊地として知られ、頂上には篠山神社が鎮座している。4月下旬から5月上旬にかけては、アケボノツツジやシャクナゲの花が咲きほこります。

山頂近くに咲くアケボノツツジ

住：南宇和郡愛南町正木
☎：0895-84-2211 愛南町役場 一本松支所
P：あり（山頂まで約1時間）

第41番札所

稲荷山（いなりざん）・護国院（ごこくいん） 龍光寺（りゅうこうじ）

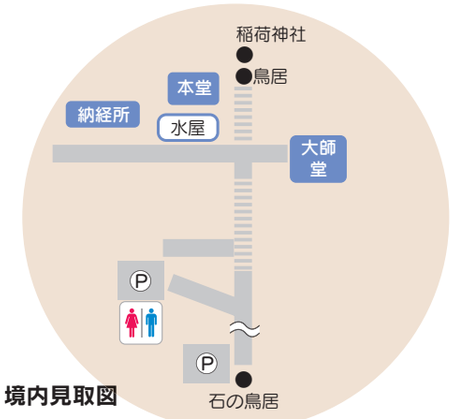
稲荷大明神が祀られ神仏が同居する「三間のお稲荷さん」

大同（だいどう）2年（807）、弘法大師はこの地で稲を背負った白髪の老人に出会った。大師は老人が五穀大明神の化身であると悟り、ここに寺を建立して老人の尊像を刻み、稲荷大明神として安置し、四国霊場の総鎮守とした。その後、明治初年の神仏分離令により、旧本堂は稲荷神社の社殿となり、新たに本堂が建てられ、本尊は十一面観世音菩薩（かんぜおんぼさつ）像に変わった。

もとの本尊の稲荷大明神は本尊とともに本堂内に合祀されている。そのため、地元では「三間のお稲荷さん」と呼ばれ親しまれている。

ここには仁王門はなく、石の鳥居が山門となっている。石の鳥居をくぐり、石段を上ると仁王像の代わりに狛犬に迎えられ、さらに石段を上ると赤い鳥居が立つ。

毎年3月の第1月曜日はお稲荷さんの大祭が催され、五穀豊穣に加え、商売繁盛にご利益があると商人からの信仰も篤（あつ）い。



境内見取図

本堂への参道石段

宗　派	真言宗御室派		
開　基	弘法大師	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	この神は 三国流布の密教を 守り給わむ 誓いとぞ聞く		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	宇和島市三間町戸雁 173		
電　話	0895-58-2186		
駐車場	10 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／三間 IC から県道 31 号を経由、約 5 分 鉄道／ JR 予土線伊予宮野下駅下車徒歩約 15 分 バス／宇和島バス宇和島～仏木寺線石ヶ鼻下車徒歩約 15 分		

アクセスマップ

石の鳥居（元禄５年建立）

大師堂

稲荷神社の社殿

狛犬

稲荷神社の鳥居

ちょっと寄り道

満願寺

境内にある二重柿は実の中にもう一つの実があり、弘法大師が立寄った際に地面に立てた杖の場所に生えたとされる。夫婦でこの柿を食べると子宝に恵まれるといわれている。

住：宇和島市津島町岩渕甲 1657
☎：0895-32-2897
P：あり（10 台）

宇和島城

慶長6年（1601）藤堂高虎（とうどうたかとら）の築城とされている。江戸時代から現存している12天守の一つで、国の重要文化財に指定されている。

住：宇和島市丸之内 1
☎：0895-22-2832
営：10 月～ 3 月 9:00 ～ 16:00
　　4 月～ 9 月 9:00 ～ 17:00
料：大人 200 円小中学生 100 円
P：あり（45 台）

和霊神社

石造りの大鳥居と和霊大祭で名高い社。地元では「和霊さま」の名で親しまれている。

住：宇和島市和霊町 1451
☎：0895-22-0197
営：無休
P：あり（15 台）

龍光院

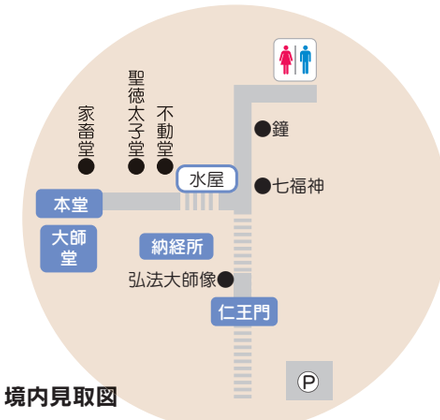
第40番霊場 観自在寺の奥の院。弘法大師が宇和島湾の九島（願成寺）に建立したが、廃寺となったため、現在地に移設。四国別格20霊場第6番札所

住：宇和島市天神町 1 番 1 号
☎：0895-22-0527
P：あり

第42番札所

一琿山・毘盧舎那院 仏木寺

牛馬の寺として親しまれている「お大日さん」



境内見取図

大同2年（807）、弘法大師はこの地で牛を引く年寄りに出会う。その老人と楠の下にいくと大師が唐から東方に投げた宝珠を見つけた。そこで大師はその楠で大日如来を刻み宝珠を眉間に納め堂宇を建立した。楠を刻んで本尊にしたことから寺号を仏木寺としたと伝えられる。

この由来から、本尊は牛馬の守護仏となり、地元の人々から「お大日さん」と呼ばれ親しまれている。近年はペット供養に訪れる人も多い。

本堂は、享保13年（1728）に吉田藩主伊達若狭守によって建立されたと伝えられている。大師堂の弘法大師像は胎内に鎌倉末期の「正和4年（1315）」とあり、木造の弘法大師像としては全国で三番目に古く、胎内銘入りの弘法大師像としては日本最古といわれる。

鐘楼は茅葺屋根で元禄年間に再建されたもので、四国霊場ではここだけ。7月の丑の日の「瓜封じ」では、人や牛馬の病をキュウリにとじ込めて一年の無病息災を祈る。

七福神

宗　派	真言宗御室派		
開　基	弘法大師	本　尊	大日如来
御詠歌	草も木も 仏になれる仏木寺 なお頼もしき 鬼畜人天		
真　言	おん あびらうんけん ばざら だとばん		
住　所	宇和島市三間町則 1683		
電　話	0895-58-2216		
駐車場	20 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／三間 IC から県道 31 号を経由、約 4 分 鉄道／ JR 予土線伊予務田駅下車徒歩約 1 時間 バス／宇和島バス宇和島～仏木寺線仏木寺下車		

アクセスマップ

茅葺屋根の鐘楼

仁王門

境内の地蔵尊

家畜堂

聖徳太子堂

ちょっと寄り道

花街道

龍光寺から仏木寺までの沿道にある花街道。春はチューリップ、夏はサルビア、秋はコスモスが咲き、お遍路さんを癒してくれる。

住：宇和島市三間町

旧庄屋毛利家屋敷

約250年前から現存する。15歳で庄屋になった初代当主の邸蔵が、12年の歳月をかけて造った庄屋屋敷。

住：宇和島市三間町是能 419
☎：0895-58-2151
旧庄屋毛利家を守る会
営：9:00～17:00　P：あり（30台）

中山池自然公園

三間町はため池が多く中山池を中心に整備された公園。秋にはコスモス、12月には約10万個のLEDを使ったイルミネーションで飾られる。

住：宇和島市三間町
黒井地 1550 番地外
☎：0895-58-3311
宇和島市役所三間支所
営：9:00～17:00　P：あり（15台）

歯長（はなが）峠

仏木寺から明石寺に向かう遍路道にある歯長峠。峠には見送大師を安置する「送迎庵見送大師」と呼ばれる大師堂が建立されている。

住：西予市宇和町

第43番札所

明石寺（めいせきじ）

源光山・円手院（げんこうざん・えんじゅいん）

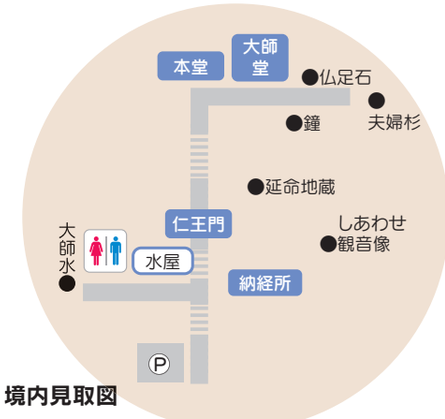
「あげいしさん」の名で親しまれる源頼朝ゆかりの寺

欽明天皇（539～571）の勅願により、円手院正澄上人が千手観音を安置し、七堂伽藍を建立して開基した。その後、荒廃した伽藍を弘法大師が再興し、霊場に定めた。建久5年（1194）には源頼朝が命の恩人である池の禅尼（平清盛の継母）の菩提を弔うために阿弥陀如来を安置。同時に経塚を築き、堂宇の修繕を手がけた。このとき源氏にちなみ山号を源光山とした。

その後、多くの武士が帰依する寺となり、室町時代には領主・西園寺家の祈願所として、また江戸時代には宇和島藩主・伊達家が堂宇を再建したと伝えられている。

仁王門をくぐり、石段を上った正面に屋根が唐破風造りの本堂がある。現在の本堂は明治時代に全国の信者の浄財により建立された。

「めいせきじ」と読むが、地元の人たちは親しみをこめて「あげいしさん」と呼んでいる



境内見取図

明石寺から卯之町へ向かう山越えの道

宗　派	天台寺門宗		
開　基	正澄上人	本　尊	千手観世音菩薩
御詠歌	聞くならく 千手の誓いふしぎには 大磐石も かろくあげ石		
真　言	おん ばざらたらま きりく そわか		
住　所	西予市宇和町明石 201		
電　話	0894-62-0032		
駐車場	200台(普通車のみ無料)	宿　坊	なし
交　通	車／西予宇和 IC から県道 29 号を経由、約 5 分 鉄道／ JR 予讃線卯之町駅下車徒歩約 35 分		

アクセスマップ

本堂前

大師堂

夫婦杉

仁王門

仁王門の大わらじ

ちょっと寄り道

わらぐろミュージアム

西予市の石城地区の冬の風物詩。「わらぐろ」は、農村景観を守るため地元住民らにより作られている。冬季にはライトアップされ、幻想的な世界となる。

住：西予市宇和町西山田 423-1
☎：0894-62-9445 石城公民館
営：10 月中旬～ 4 月末
P：あり（15 台）

金山出石寺（きんざんしゅっせきじ）

出石山（いずしやま812m）の山上に伽藍を構える。弘法大師が鉱脈を発見したことから山号を「雲峰山（らんぽうざん）」から「金山（きんざん）」に改めた。四国別格20霊場第7番札所。

住：大洲市豊茂乙 1
☎：0893-57-0011
P：あり（100 台）

十夜ケ橋（とよがばし）

弘法大師がこの橋の下で寒さと空腹のために寝付けず、一夜が十夜の長さに感じられたということから十夜ケ橋と名付けられた。四国別格20霊場第8番札所。

住：大洲市東大洲 十夜ケ橋
☎：0893-25-2530
正法山永徳寺
P：あり（15 台）

大洲城

市民による寄付等によって平成16年（2004）、江戸期の資料に基づき、四層四階の天守閣が忠実に復元された。

住：大洲市大洲 903
☎：0893-24-1146
大洲城管理事務所
営：9:00 ～ 17:00 休：無休
料：大人 500 円小人 200 円
P：あり（70 台）

遍路道ギャラリー春夏編

第 58 番札所仙遊寺の御住職と宿坊前にて

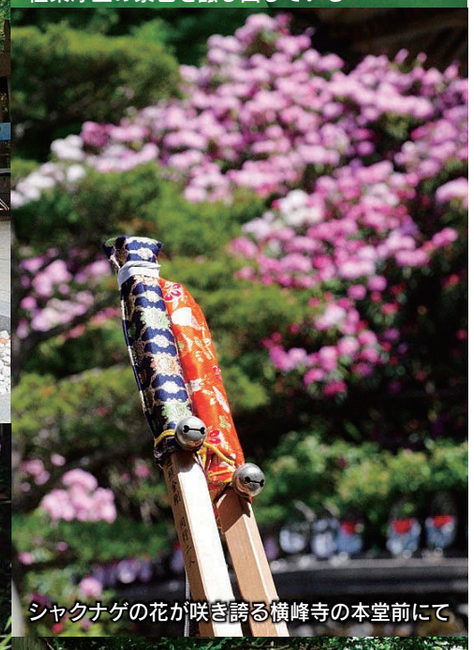
第 52 番札所太山寺にて、桜の下で大師堂を参拝するお遍路さん

三坂峠の柔らかな陽の下で

第 46 番札所浄瑠璃寺弁天池の満開の桜

参道途中にある仁王門では金剛力士像が迎えてくれる（仙遊寺）

浄瑠璃寺弁天池のハスの花は、極楽浄土の景色を醸し出している


シャクナゲの花が咲き誇る横峰寺の本堂前にて

夏の遍路を迎えるひまわりの花

札所では、地元の方々によるお接待が行われる（仙遊寺）

第44番札所

菅生山（すごうさん）・大覚院（だいかくいん）

大寶寺（だいほうじ）

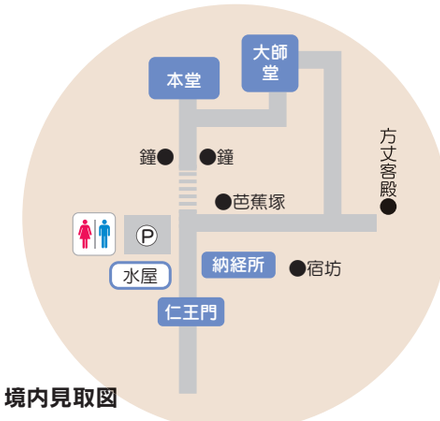
八十八ケ所の半分にあたる「中札所」の霊場

飛鳥時代の用明（ようめい）天皇の頃、百済（くだら）からきた僧侶が、携えてきた十一面観音像をこの山中に安置していた。大宝（たいほう）元年（701）、安芸（広島）からきた明神（みょうじん）右京（うきょう）、隼人（はやと）という兄弟の狩人が、菅草（すげぐさ）のなかにあった十一面観音像を見つけ、草庵（そうあん）を結んでこの尊像を祀った。その噂を聞いた文武（もんむ）天皇は、勅命（ちょくめい）を出して寺院を建立、元号にちなんで「大寶寺」とし、創建した。その後、およそ120年後に弘法大師が訪れ、密教三教の修法を厳修し、四国霊場第44番札所と定めた。これを機に天台宗だった宗派が真言宗に改められた。

なお、四国霊場八十八ヶ所のちょうど半分に当たることから「中札所」ともいわれる。

仁平（にんぺい）と天正（てんしょう）年間に火災にあい、松山藩主松平家の祈願所にもなったが、明治7年の3度目の焼失後、地元の寄進で数度にわたり再建された。

放浪の俳人・種田山頭火（さんとうか）も訪れており、山頭火が歩いた参道には、巨木や杉木立が立ち並び、ひんやりした空気に包まれる。また、境内には八十八ヶ所霊場にある芭蕉塚で最古といわれる「霜夜塚（しもよづか）」がある。



境内見取図

秋の境内はイチョウの落葉に埋れる

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	明神右京・隼人	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	今の世は 大悲のめぐみ菅生山 ついには弥陀の 誓いをぞまつ		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	上浮穴郡久万高原町菅生 2 番耕地 1173		
電　話	0892-21-0044		
駐車場	30 台（無料）	宿　坊	あり（150 人、要予約） 団体客のみで空きがあれば個人も可
交　通	車／松山 IC から国道 33 号を経由、約 45 分 バス／ JR バス久万高原（または落出）行久万中学校前下車、徒歩約 20 分		

アクセスマップ

本堂前の銀杏

仁王門

境内

山頭火の句碑

芭蕉塚

ちょっと寄り道

八日市・護国の町並み

内子町の八日市・護国地区は、伝統的な造りの町家や豪商の屋敷や土蔵が、当時のまま軒を連ね、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

住：喜多郡内子町
☎：0893-44-5212
八日市・護国町並保存センター
P：あり（80 台）

道の駅 内子フレッシュパークからり

内子産の新鮮なフルーツ・野菜・加工品が人気。全国モデル「道の駅」6か所の1つに選定された。

住：喜多郡内子町内子 2452 番地
☎：0893-43-1122
営：8:00 ～ 18:00(3/16 ～ 10/31)
8:00 ～ 17:00(11/1 ～ 3/15)
P：あり（180 台）

面河渓

石鎚山の麓に広がり、面河川の上流の四国最大の渓谷。手つかずの自然が残り、未来に残したい日本の自然100選に選ばれている。

住：上浮穴郡久万高原町若山
☎：0892-21-1111
久万高原町役場 企画観光課
P：あり（70 台）

千人宿記念大師堂

お遍路千人宿泊を記念して古くからあった大師堂を昭和5年（1930）に建て替えた善根宿（ぜんこんやど）。

住：喜多郡内子町大瀬東

第45番札所

岩屋寺（いわやじ）

海岸山（かいがんざん）

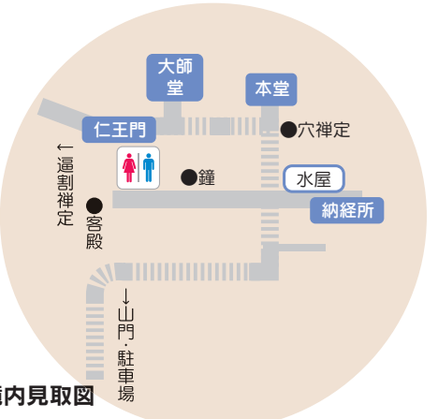
山全体が本尊という霊気漂う山岳霊場

この地に法華（ほっけ）仙人という女性が住んでいた。弘仁（こうにん）6年（815）に、弘法大師が修行の霊地を探して入山すると仙人は大師に帰依（きえ）し、仙人は山を大師に献上して往生した。大師は木と石で2体の不動明王（ふどうみょうおう）を刻み、木像は本尊として本堂に安置し、石像は岩場に封じ込めて、山全体を本尊とした。山号は「山高き 谷の朝霧 海に似て 松吹く風を波にたとえむ」と大師が詠んだ歌にちなむ。大師堂は平成19年に国の重要文化財に指定された。

車で行けるのは、ふもとの岩屋寺橋を渡った駐車場まで。山門から本堂までは266段のきつい石段を登る。

寺を囲む岩峰（いわみね）は数千万年前は海底にあったといわれる。隆起し浸食されて迫力ある景観となった。本堂右側の岩山は金剛界峰（こんごうかいほう）、左の鐘楼（しょうろう）門に面したところが胎蔵界峰（たいぞうかいほう）と呼ばれている。

大師堂の奥の山道を300メートルほど上ると、弘法大師が修行した「逼割禅定（せりわりぜんじょう）」がある。ここから岩の間を抜け、鎖と梯子を登って岩山の頂上の白山権現に至る。

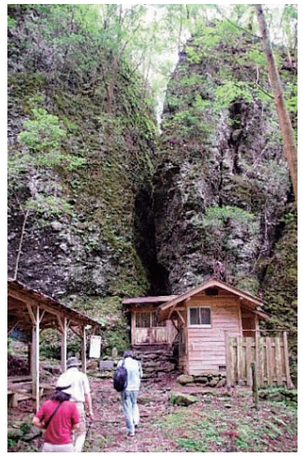


境内見取図

岩壁が迫る本堂

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	弘法大師	本　尊	不動明王
御詠歌	大聖の いのる力のげに岩屋 石のなかにも 極楽ぞある		
真　言	のうまく さんまんだ ばざらだん せんだ まかろしゃだ そわたや うんたらた かんまん		
住　所	上浮穴郡久万高原町七鳥 1468		
電　話	0892-57-0417		
駐車場	あり（有料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号を経由、約 1 時間 バス／ JR バス久万高原（または落出）行久万中学校前下車、久万中学校前から伊予鉄南予バス面河行岩屋寺下車徒歩約 20 分		

アクセスマップ



逼割禅定

境内

大師堂

「かなえる不動」がある穴禅定

ちょっと寄り道

古岩屋

四国カルスト県立自然公園に属する約4500万年前の地層が残る巨大な大岩壁で国の名勝に指定されている。

住：上浮穴郡久万高原町直瀬乙
☎：0892-21-1111
久万高原町役場 企画観光課
P：あり（50台）

道の駅 天空の郷 さんさん

新鮮な野菜を販売する直売所のほか、農家レストランやパン工房、ファーストフードが大人気。

住：上浮穴郡久万高原町入野
1855番地6
☎：0892-21-3400
営：9:00 ～ 17:00　P：あり（51台）

仰西渠（こうさいきょ）

江戸時代の中期、商人山之内彦左衛門（後の仰西）が私財を投じて硬い岩をくりぬき開いた農業用水路は、現在も利用されている。

住：上浮穴郡久万高原町西明神
☎：0892-21-1111
久万高原町役場 企画観光課
P：あり（4台）

八丁坂

岩屋寺に向かう遍路道。岩屋寺は厳しい山岳修行の寺とされ、表参道を通らず、尾根づたいにこの急坂の遍路道を「南無大師遍照金剛」と唱えながら登った。

住：上浮穴郡久万高原町

第46番札所

浄瑠璃寺

医王山・養珠院

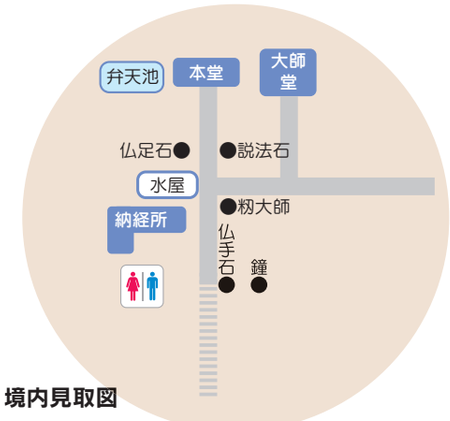
健脚や文筆達成などのご利益に恵まれる寺

浄瑠璃寺は、松山市内8ヶ寺の打ちはじめの寺である。和銅元年（708）、奈良の大仏開眼に先立ち、仏教を布教するため伊予へやってきた行基が本尊の薬師如来や脇侍の日光・月光菩薩像と十二将神像を刻んで安置した。寺号は、薬師如来の別名である瑠璃光如来から、山号医王は薬師如来の別名・医王如来に由来する。

大同2年（807）、弘法大師が伽藍を修復。その後、霊場になったという。室町時代には地元の荏原城主平岡通倚が土地を寄進し、堂宇が建立された。

その後、荒廃と再興を繰り返し、江戸時代の正徳5年（1715）に山火事で本尊と脇侍を除いて、ほとんどの建物が焼失したという。天明5年（1785）に庄屋出身で僧侶の尭音によって再建された。尭音は、岩屋寺から松山に至る道に8つの橋を架けた社会事業家でもあった。

境内にある大師が加持したといわれる樹齢1000年を超す「伊吹柏槙」（イブキビャクシン）は松山市の天然記念物に指定されている。



境内見取図

本堂裏の遍路墓と桜

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	行基	本　尊	薬師如来
御詠歌	極楽の 浄瑠璃世界たくらえば 受くる苦薬は 報いならまし		
真　言	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか		
住　所	松山市浄瑠璃町 282		
電　話	089-963-0279		
駐車場	8台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山ICから国道33号を経由、約20分 バス／伊予鉄バス森松行森松まで、丹波行浄瑠璃寺下車徒歩約1分		

アクセスマップ

イブキビャクシン

大師堂

桜並木

弁天池に咲くハスの花

素足になって祈願する仏足石

ちょっと寄り道

三坂峠

久万高原町から三坂峠を越えて松山市窪野町に至る土佐街道（旧街道）は、三坂新道（国道33号）が開通するまで、久万・土佐と松山を結ぶ主要街道であった。

三坂峠から望む松山平野

住：上浮穴郡久万高原町東明神

三坂峠から浄瑠璃寺へ下る遍路道

網掛け石

弘法大師が大きな石を網に入れてオウク（担（にな）い棒）で運んでいたところ、オウクが折れて、落ちたところをオオクボ（松山市久谷町大久保）というようになった。また石のひとつは下の川に落ち、もうひとつはこの石であるといわれている。表面に網の目が刻まれていることから「網掛け石」と呼ばれている。鯨にも似ているので「鯨石」とも呼ばれる。

網掛け石と大師像

住：松山市久谷町榎

網掛け石大師堂

第47番札所

熊野山・妙見院 八坂寺

八本の坂を切り開いて創建された寺

修験道の開祖、役行者小角が開いたという。

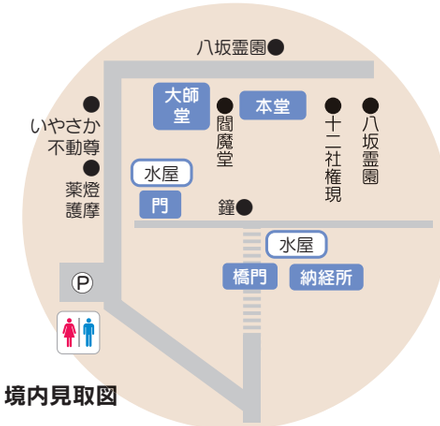
大宝元年（701）、文武天皇の勅願で伊予の国司・越智玉興が伽藍を創建した。このとき8つの坂を切り開いたことに由来して寺号が付けられた。

弘仁6年（815）、弘法大師が再興し、霊場に定めた。後に紀州（和歌山県）から熊野権現を勧請して祀ったことから「熊野山八坂寺」と呼ばれるようになった。

往時は12坊、末寺48寺を有する修験道の根本道場として栄え、隆盛を極めた。しかし、天正年間（1573～92）の長宗我部勢の兵火など度重なる火災で伽藍の多くを焼失、規模は縮小し、末寺もなくなっていった。

本尊の阿弥陀如来は高さ三尺（約90㌢）、寄木造の坐像で、県の有形文化財となっている。開帳は50年に一度に限られている。次回見ることができるのは平成46年（2034）である。

本堂と大師堂の間に閻魔堂が建つ。トンネル状になっており「極楽の道」には美しい浄土が、「地獄の道」には飢餓道、畜生道、修羅場などが描かれている。



境内見取図

地獄の道の入口

宗　派	真言宗醍醐派		
開　基	役行者小角	本　尊	阿弥陀如来
御詠歌	花を見て 歌詠む人は八坂寺 三仏じょうの 縁とこそきけ		
真　言	おん あみりた ていせい から うん		
住　所	松山市浄瑠璃町八坂 773		
電　話	089-963-0271		
駐車場	40 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号を経由、約 20 分 バス／伊予鉄バス森松行森松まで、丹波行八坂寺下車徒歩約 4 分		

アクセスマップ

山門の天井に描かれている阿弥陀如来

大師堂

閻魔堂

八坂寺前の景観

ちょっと寄り道

お遍路の里 えばら MAP（土用部池）

土用部池の堤の下の道標

道標（みちしるべ）

四国霊場2番目に古い道標。「（手印）右遍ん路道 貞享二乙丑三月吉日 法房」と刻まれている。江戸前期、貞享（じょうきょう）2年（1685）に建てられたもの。「法房」は願主と考えられる。

上林自然公園「風穴」

四季を通して一定の風が吹き出し、夏になると、外気との温度差により霧が辺り一帯を覆うことから、涼を求める人で賑わう。

住：東温市上林乙 896-24
☎：089-964-4414
東温市役所 産業創出課
P：あり（50 台）

上林水の元「そうめん流し」

緑に囲まれた大自然の中、夏の暑さから逃れる様に澄んだ空気と共に涼を味わいに多くの人が訪れる。タマネギやミョウガなど全5種類の薬味をいれて食べるそうめんは格別。

住：東温市上林水の元
☎：090-1172-5308
上林水の元そうめん流しの会
営：10:00 ～ 16:00(7 月～ 8 月)
料：大人 600 円 小学生 300 円
P：あり（約 20 台）

四国遍路の開祖・衛門三郎伝説

松山市の南部、久谷町から恵原町にかけての地域には、弘法大師や四国遍路の祖といわれる衛門三郎にまつわる伝説とそれにちなんだ建物や遺跡などが今も残されています。こうした霊跡を訪ねてみるのも、また楽しいものです。

札始大師堂

松山市の南部、荏原の庄（現恵原町）の庄屋であった衛門三郎は、何度も托鉢に訪れる旅の僧を弘法大師とは知らず、追い払おうとして僧が手にしていた鉄鉢を竹ぼうきで叩き落とします。鉄鉢は八つに割れ、その翌日から、衛門三郎の八人の子供は次々に亡くなります。

衛門三郎は、旅の僧が弘法大師だったことを知り、許しを乞うために大師を追って四国内を巡拝しますが、これが四国遍路のルーツだと言われています。

衛門三郎が、大師の姿を捜して、まず、最初に訪ねたのが、この大師堂と言われています。現在の堂は建て替えられたものですが、中には、衛門三郎が大師の鉄鉢を竹ぼうきで叩き落とす様子を描いた絵が飾られています。

住：松山市小村町 41-3

鉄鉢を竹ぼうきで叩く様子を描いた絵

八ツ塚（八ツ塚群集古墳）

住：松山市恵原町

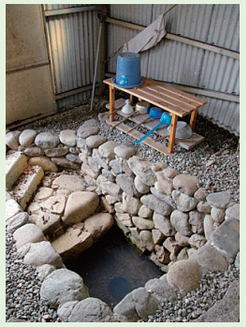
衛門三郎の八人の子供を祀った墓とされるのが八ツ塚です。八ツ塚は、八つの小さな丘の上に祠や石の地蔵が祀られてお墓のようにも見えますが、実際には古墳時代末期の古墳のようです。「八ツ塚群集古墳」として松山市指定の史跡となっており、古代の遺跡と弘法大師伝説が融合した形で今に伝わっているものと言えるでしょう。

衛門三郎の子供を祀ったといわれる八ツ塚の一番塚

八窪

衛門三郎が叩き落として割った鉄鉢の八つの破片は周囲へ飛び去って、山中に落ち、それぞれ落ちたところが窪みとなって清水が湧くようになったと言われており、これが八窪です。このうちの一ヶ所は「鉢の水大師」と呼ばれ、今も水が湧いています。

建屋の中の大師堂


水汲み場

一遍上人の窪寺閑室跡

住：松山市窪野町196

遍路道から少し外れますが、窪野バス停（終点）から山に向かって2キロほど登ると、時宗の祖、一遍上人ゆかりの窪寺遺跡と3年間修行したという閑室跡があります。正確に考証された場所ではないようですが、石碑が立てられており、一帯は秋にはヒガンバナの名所として多くの人が訪れます。

一遍上人窪寺閑室跡の石碑

窪寺跡の周囲はヒガンバナの名所

付近にはヒガンバナが多い

文殊院

正式には大法山文殊院と号し、衛門三郎の屋敷があったと伝えられる場所に建つ「四国別格二十霊場」の第9番札所の寺です。

境内には、衛門三郎と妻の石像があります。

衛門三郎夫婦の石像

住：松山市恵原町 308
☎：089-963-1960
P：あり（5台）

境内に建つ弘法大師像

文殊院全景

文殊院（本堂と大師堂）

第48番札所

西林寺（さいりんじ）

清滝山（せいりゅうざん）・安養院（あんようういん）

湧水伝説が残る伊予の関所寺

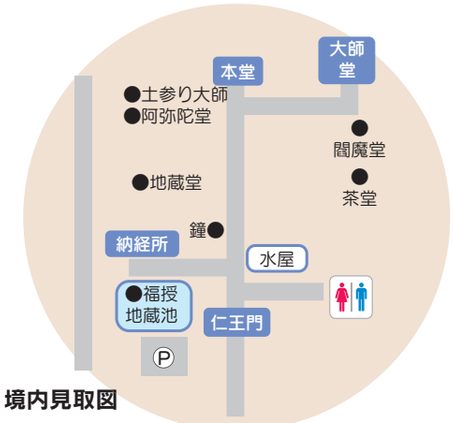
寺の近隣に、弘法大師が錫杖（しゃくじょう）杖を突き立てると、清らな水が噴き出したといわれる名水「杖ノ淵（じょうのふち）」がある。山号の「清滝山」はその伝説に由来する。

小川に囲まれた西林寺の境内は、川の土手より低い場所にあることから、罪人が門をくぐると、無間（むげん）地獄に落ちるとされ、「伊予の関所寺」と呼ばれた。

天保（てんぽう）14年（1843）、仁王門が再建され、前の川には弧を描いた石橋が架かっており、その左側には「秋風や高井のていれぎ三津の鯛」と書かれた正岡子規の句碑が立つ。

天平（てんぴょう）13年（741）、行基（ぎょうき）が伊予国司・越智玉純（おちたまずみ）とともに建立。本尊の十一面観世音菩薩（かんぜおんぼさつ）像は行基が刻んだものといわれている。大同（だいどう）2年（807）、に弘法大師が現在地に移し伽藍（がらん）を再興した。

現在の堂宇は寛永（かんえい）年間（1624～1644）火災により焼失。元禄13年（1700）松山藩第四代藩主、松平定直（まつだいらさだなお）が再建したといわれる。



境内見取図

桜が咲く駐車場

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	行基	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	弥陀仏の 世界を尋ね行きたくば 西の林の寺に詣れよ		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	松山市高井町 1007		
電　話	089-975-0319		
駐車場	30 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号を経由、約 10 分 バス／伊予鉄バス久米駅から久米窪田線で、高井局前下車、徒歩約 10 分		

アクセスマップ

大師堂

本堂

正岡子規の句碑

仁王門前の石橋

境内

ちょっと寄り道

住：松山市南高井町 1346-1
☎：089-948-6519
松山市役所公園緑地課
営：8:00 ～ 19:00(4 月～ 9 月)
8:00 ～ 18:00(10 月～ 3 月)
P：あり (38 台)

杖ノ淵（じょうのふち）公園

日本名水百選の一つ。村人を救うため、この地を訪れた弘法大師が杖を突き立てたところから水が湧きだしたという伝説を持つ自然豊かな親水公園。

住：東温市明河
☎：089-964-4414
東温市役所産業創出課
P：あり (7 台)

滑川（なめがわ）渓谷

全長1kmにおよぶ一枚岩「ナメラ」と呼ばれる川床。長い年月をかけ小石が内側を削ってできた甌穴（おうけつ）など、四季を通じて、自然が創り出した芸術の世界を楽しめる。

第49番札所

浄土寺（じょうどじ）

西林山（さいりんざん）・三蔵院（さんぞういん）

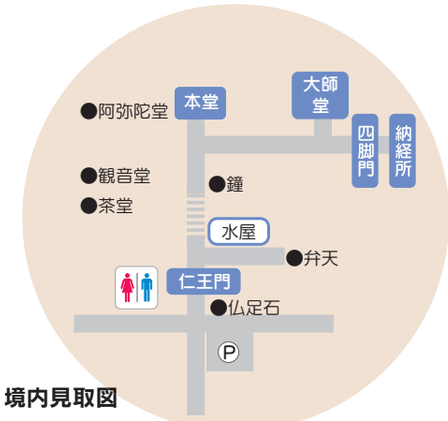
庶民に念仏を広めた空也上人ゆかりの寺

天平勝宝（てんぴょうしょうほう）年間（749～757）、孝謙天皇（こうけんてんのう）の勅願（ちょくがん）により恵明（えみょう）上人が行基（ぎょうき）の刻んだ釈迦如来（しゃかにょらい）を本尊として祀り創建した。後に弘法大師が巡錫（じゅんしゃく）した際、伽藍（がらん）を再興した。

鎌倉時代には源頼朝が伊予の豪族河野通信（こうのみちのぶ）ともども家門の繁栄を祈り、再興されるが、応永（おうえい）23年（1416）に兵火（へいか）によって堂宇（どう）のほとんどを焼失する。

その後も度重なる兵火に焼かれ、現在の本堂は、室町時代の文明（ぶんめい）14年（1482）に領主河野通宣（みちのぶ）が再建した。国の重要文化財に指定されている。

踊念仏の開祖、空也（くうや）上人（903～972）が天徳（てんとく）年間（957～961）、この地に3年間住み、寺を離れる時、自らの姿を刻んだ「空也上人像」が本堂にある。口から小さな仏像が6体出ていて、「南無阿弥陀仏」の6文字を意味している。また、境内の入口には「霜月（しもつき）の空也は骨に生きにけり」と詠んだ正岡子規の句碑が立つ。



境内見取図

境内の様子

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	恵明上人	本　尊	釈迦如来
御詠歌	十悪の わが身を棄てずそのままに 浄土の寺へ まいりこそすれ		
真　言	のうまく さんまんだ ぼたなん ばく		
住　所	松山市鷹子町 1198		
電　話	089-975-1730		
駐車場	30 台（有料）	宿　坊	なし
交　通	車／川内 IC から国道 11 号を経由、約 25 分 電車／伊予鉄道横河原線久米駅下車、徒歩約 5 分		

仁王門

正岡子規の句碑

大師堂

観音堂

納経所へ向かう小庭

ちょっと寄り道

三輪田米山（みわだべいざん）の墓

三輪田米山（1821～1908年）は、松山久米の日尾八幡神社の神主で、名書家である。中予地区一帯の神名石（しんめいせき）や注連石（しめいし）、幟（のぼり）などに数多く残されている。

墓は浄土寺にあり、墓標の文字「米山三輪田先生墓」は、生前に自ら筆をふるったものである。

重信川かすみの森公園

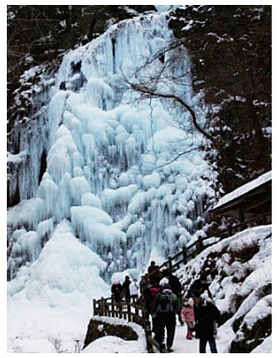
重信川の横に併設されている公園で、四季を通じて大人から子供まで楽しめる。テントを張って遊ぶことができ、また、セミ・バッタ・トンボ等の昆虫が豊富に生息している。

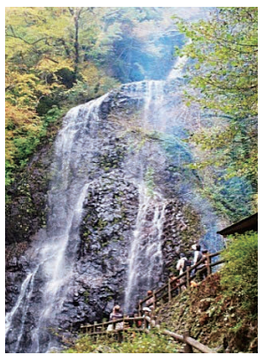
住：東温市上村 417 番 1 地先
☎：089-964-4412
東温市まちづくり課
料：無料
P：あり（28 台）

白猪（しらい）の滝

愛媛県でも屈指の景観を誇る滝であり、正岡子規や夏目漱石などもこの地を訪れ、多くの短歌や俳句を残している。

冬の寒さ厳しい日には高さ96ｍもある滝全体が凍結し、神秘的な光景を見ることができる。





住：東温市河之内
☎：089-964-4414
東温市役所 産業創出課
料：無料
P：あり（30 台）

第50番札所

繁多寺（はんたじ）

東山・瑠璃光院（ひがしやま・るりこういん）

時宗の開祖、一遍上人ゆかりの寺

天平勝宝年間（749～757）、孝謙天皇の勅願により行基が開基、本尊の薬師如来も刻んだといわれる。

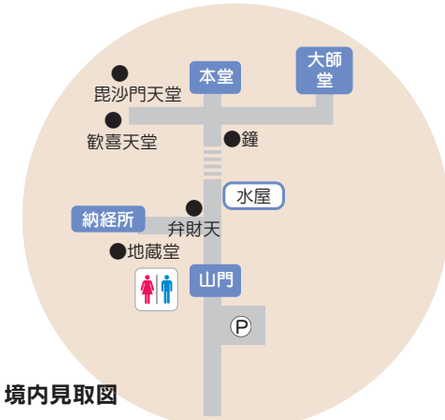
寺は一時衰退するが、伊予の国司・源頼義が再興。弘安2年（1279）、後宇多天皇の勅命により、聞月上人が蒙古軍撃退の祈祷を行ったといわれる。

時宗の開祖、一遍上人（1239～89）は、この地の河野一族の出で、この寺で学問修行をし、晩年には「浄土三部経」を奉納している。

また、天皇家の菩提寺である京都・泉涌寺とのゆかりも深く、応永2年（1395）には後小松天皇の勅命により泉涌寺・快翁和尚が繁多寺の第5世住職に就任。以降高僧が住職となっている。寺には菊のご紋のついた瓦も残る。

江戸時代の名僧・龍瑚が徳川家の帰依を受け、現在の伽藍を再建。この時に、第4代将軍家綱の念持仏三体のひとつである歓喜天を祀った。

高台にある境内からは、松山城をはじめ松山市街から瀬戸内海まで一望できる。



境内見取図

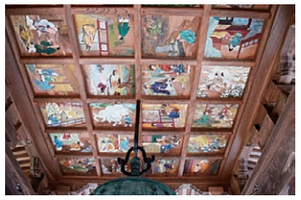
山門横の古い道標

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	行基	本　尊	薬師如来
御詠歌	よろずこそ 繁多なりとも怠らず 諸病なかれと 望み折れよ		
真　言	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか		
住　所	松山市畑寺町 32		
電　話	089-975-0910		
駐車場	5台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号を経由、約 20 分 バス／伊予鉄バス久米駅行繁多寺口下車、徒歩約 15 分		

アクセスマップ

山門

大師堂



鐘つき堂の天井絵

歓喜天堂

桜の多い境内

ちょっと寄り道

松山城

宇和島城と共に江戸時代から現存している12天守の一つ。21棟の建造物が国の重要文化財に指定されている。「日本100名城」、「美しい日本の歴史的風土100選」にも選定されている。

住：松山市丸之内
☎：089-921-4873
松山城総合事務所
営：9:00 ～ 17:00（季節により異なる）
休：12 月第 3 水曜日
料：天守閣：大人（中学生以上）510 円
小人（小学生以上）150 円
P：あり（26 台）

萬翠荘（ばんすいそう）

大正11年（1922）久松定謨（さだこと）伯爵の別邸として建てられたフランス・ルネッサンス様式の洋館。現在は各種イベント・個展等に利用されている。

住：松山市一番町 3-3-7
☎：089-921-3711
営：9:00 ～ 18:00　休：月曜
料：大人 300 円
小人（高校生まで）100 円
P：あり（20 台）

坂の上の雲ミュージアム

司馬遼太郎著「坂の上の雲」をテーマにしたミュージアム。「秋山兄弟」と「正岡子規」の生涯に関連する様々な展示がなされている。

住：松山市一番町三丁目 20
☎：089-915-2600
営：9:00 ～ 18:00　休：月曜
料：大人 400 円、高校生 200 円
中学生以下無料
P：なし

第51番札所

熊野山・虚空蔵院 石手寺

遍路の開祖、衛門三郎伝説ゆかりの寺

創建は天智9年（670）、神亀5年（728）に伊予の豪族越智玉純が熊野十二社権現を祀り、勅願所と定めたといわれる。翌年の天平元年（729）、行基が薬師如来を刻んで本尊とした。その時は安養寺と称し、法相宗に属していたが、後に弘法大師が訪問した際、真言宗に改めた。

遍路の開祖・衛門三郎は、八人の子供が亡くなったことから、懺悔の心で八十八ヶ所を巡り、21周重ねて倒れる。そこへ弘法大師が現れ、改心した臨終の衛門三郎に「衛門三郎再来」と刻んだ石を握らせた。その後、この地方の豪族河野家に生まれた男の子が、右手にその石を握りしめていた。そこでこの石を当寺に納め、寺名を「石手寺」に改めた。

二層入り母屋造り本瓦葺の二王門は文保2年（1318）の建立で、国宝に指定されている。また、国の重要文化財として本堂をはじめとして、三重塔、鐘楼、五輪塔、訶梨帝母天堂、護摩堂の建造物と、建長3年（1251）の銘が刻まれた愛媛県最古の銅鐘がある。

境内見取図

本堂前の大きな五鈷

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	行基	本　尊	薬師如来
御詠歌	西方を　よそとは見まじ安養の 寺に詣り手　受くる十楽		
真　言	おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか		
住　所	松山市石手２―９―21		
電　話	089-977-0870		
駐車場	200台（有料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山ICから国道33号を経由、約40分 バス／伊予鉄バス湯の山ニュータウン行石手寺下車、徒歩約1分		

アクセスマップ

三重塔越しに見る
裏山の巨大な大師像

石手寺近郊の岩堰に咲く
菜の花と桜

二王門（国宝）

衛門三郎像

売店が建ち並ぶ参道

ちょっと寄り道

道後温泉本館

約3000年の歴史を誇る日本最古の湯。明治27年（1894）に建設された木造3層楼の公衆浴場で国の重要文化財に指定されている。小説「坊っちゃん」をはじめ数多くの映画に登場している。

住：松山市道後湯之町5-6
☎：089-921-5141
営：6:00～23:00
（施設により異なる）
休：無休
料：大人410円～
P：あり（100台）

坊っちゃん列車

小説「坊っちゃん」の主人公が乗ったことから、「坊っちゃん列車」の愛称で親しまれるようになった。平成13年（2001）ディーゼル車両として復元。

住：松山市道後
☎：089-948-3222
伊予鉄道株式会社庶務課
休：無休
料：大人500円、小児250円　P：なし

子規記念博物館

俳人・正岡子規の実物資料やレプリカ、パネルなどの資料と、映像コーナーにより子規の生きた軌跡と松山の歴史・文学を紹介。

住：松山市道後公園1-30
☎：089-931-5566
営：5月～10月9:00～18:00
11月～4月9:00～17:00
休：火曜日
料：大人400円、高校生以下無料
P：あり（23台）

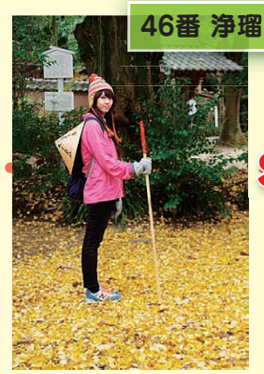
松山平野１日歩き遍路コース

松山市内には46番浄瑠璃寺から53番圓明寺まで8つの札所があり、そのうち6つの札所を無理なく歩ける一日入門コースをご紹介します。

松山市の窪野町から恵原町にかけての地域には、弘法大師や四国遍路の祖といわれる衛門（えもん）三郎にまつわる伝説とそれにちなんだ建物や遺跡などが今も残されています。これらを巡りながら、石手寺までのコースを歩きます。

START

46番 浄瑠璃寺



①まず、浄瑠璃寺にお参り

② 浄瑠璃寺前バス停からスタート

③ 八坂寺入口には見守り大師の像

47番 八坂寺

④ 土用部池堤防下にある四国で2番目に古い道標

⑤ 文殊院は衛門三郎ゆかりの寺

⑥ 八つの古墳が並ぶ八塚。八つ見つけられるかな

⑦ 札始大師堂へ寄る

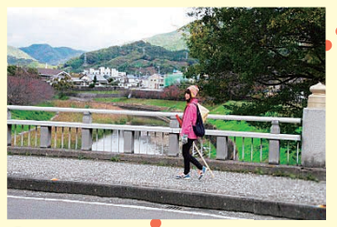
⑧ 久谷大橋を渡る

⑨ 名水百選の杖ノ淵公園

48番 西林寺

49番 浄土寺

50番 繁多寺



⑩ 石手川に架かる遍路橋

51番 石手寺

GOAL!

石手寺 三重塔

コースチャート

- 浄瑠璃寺
- ↓ 1.0km・15分
- 八坂寺
- ↓ 1.0km・15分
- 文殊院
- ↓ 0.4km・6分
- 八ツ塚群集古墳
- ↓ 1.8km・28分
- 札始大師堂
- ↓ 1.7km・26分
- 西林寺
- ↓ 0.6km・9分
- 杖ノ淵公園
- ↓ 4.0km・60分
- 浄土寺
- ↓ 2.0km・30分
- 繁多寺
- ↓ 3.0km・45分
- 石手寺

距離 約15.5km
時間 約3時間55分

第52番札所

瀧雲山・護持院 太山寺

「一夜建立の御堂」があり、歴代天皇とのゆかりの深い寺

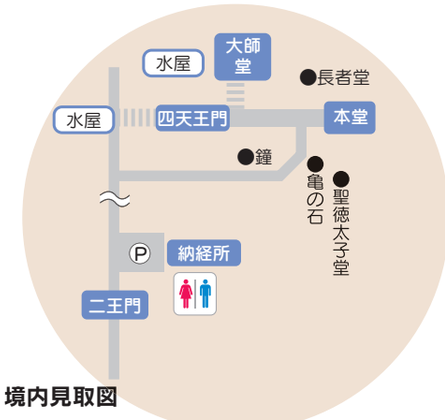
用明2年（587）、豊後（大分県）の国の真野長者が大阪に向かう途中の松山沖で海難に遭った時、観音菩薩に祈って海難を逃れた。長者はそのお礼として国に帰り、木組みをした建材を松山まで運び、一夜にして堂宇を建立したと伝えられている。

天平11年（739）、聖武天皇の勅願により行基が十一面観音を刻んで本尊とし、創建したという伝説も残っている。

その後荒廃したが、伊予の豪族河野家により嘉元3年（1305）、本堂などが再建された。

本堂は四国霊場の中で二番目に古く国宝となっている。本堂に安置されている七体の十一面観音像は、代々の天皇が納められたもので国の重要文化財である。本尊を真ん中にして並んでいる。

本堂に向かって右には、聖徳太子堂がある。かつて伊予（愛媛）の国を訪れた際、聖徳太子がこの寺と縁を持たれたと伝わり、特に1月の成人の日の「太子祭」には県内外から入試祈願に大勢の人が訪れる。



境内見取図

桜吹く大師堂

宗　派	真言宗智山派		
開　基	真野長者	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	太山へ のぼれば汗のいでけれど 後の世思えば 何の苦もなし		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	松山市太山寺町 1730		
電　話	089-978-0329		
駐車場	50 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号・環状線・国道 196 号を経由、約 40 分 バス／伊予鉄三津駅から伊予鉄バス太山寺行太山寺下車、徒歩約 5 分		

アクセスマップ

太山寺へ向かうお遍路さん

聖徳太子堂

力くらべの亀の石

二王門

本堂前の摩尼車（まに）

ちょっと寄り道

道の駅 風早の郷 風和里

新鮮野菜や北条沖で獲れた魚介類が豊富に揃っている。地元産の食材を使用したレストランも人気。風和里前の海水浴場は、夏には多くの人で賑わう。

住：松山市大浦 119
☎：089-911-7700
営：9:00 ～ 18:00
P：あり（180 台）

三津の渡し

三津浜の西性寺前と港山地区を結ぶ500年の歴史を誇る渡船。正式名称は松山市道高浜2号線という公道。現在でも地元住民の足となっている。

住：松山市三津
☎：089-951-2149
松山港務所
営：7:00 ～ 19:00
料：無料　P：なし

北条鹿島

北条港から約400㍍にある周囲1.5㎞の小島。海水浴場・キャンプ場や河野家ゆかりの鹿島神社もあり、その名のとおり鹿が生息している。展望台からは瀬戸の島々が一望できる。

住：松山市北条辻鹿島
☎：089-948-6555
松山市役所 観光・国際交流課
営：7:00 ～ 21:00（季節により変動）
料：渡船 大人 210 円、小児 110 円　P：あり（49 台）

第53番札所

圓明寺

須賀山・正智院

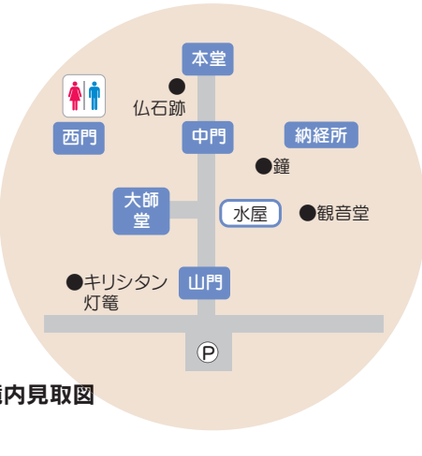
四国霊場唯一の銅板納札とキリシタン灯篭がある「和気の圓明さん」

天平勝宝元年（749）、聖武天皇の勅願を受けた行基が、阿弥陀如来を刻み安置したのが始まりといわれる。のちに弘法大師が訪れて霊場としたと伝えられる。

当初、海岸にあって五重塔はじめ七堂伽藍を備えたが、鎌倉時代に度重なる火災により焼失、江戸時代初めに和気の豪族、須賀重久によって現在地に再建されたため須賀山と号したと伝えられている。

八十八ヶ所で現存唯一の銅板の納札が残されている。大正10年（1921）、アメリカ・シカゴ大学のスタール教授が巡拝中、本尊の厨子に打ちつけられてあった銅製の納札を高く評価したことから広く知られるようになった。慶安3年（1650）伊勢国（三重県）出身の材木商、樋口平太夫家次の納札で初めて「遍路」の文字が記された納札として注目されている。

大師堂左奥には寛永年間（1624～1644）に建立されたキリシタン灯篭がある。十字架のような形状で聖母マリアらしき姿が刻まれている。



境内見取図

大師堂の額

宗　派	真言宗智山派		
開　基	行基	本　尊	阿弥陀如来
御詠歌	来迎の 弥陀の光の圓明寺 照りそふ影は 夜な夜なの月		
真　言	おん あみりた ていせい から うん		
住　所	松山市和気町 1-182		
電　話	089-978-1129		
駐車場	10 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山 IC から国道 33 号・環状線・国道 196 号を経由、約 35 分 電車／ JR 松山駅から伊予和気駅下車、徒歩約 5 分		

アクセスマップ

キリシタン灯篭

本堂

仏足跡

大師堂

山門

ちょっと寄り道

鎌大師堂

番外札所のひとつ。疫病に苦しむ当地の人々に、病気の平癒を祈って弘法大師が鎌で自身の像を彫って与えたところ、疫病が終息した。その後、村人はその像を本尊として、堂を建て「鎌大師」と呼んで深く信仰されてきた。

鎌大師堂入口のお迎え大師像。
後方は腰折山

住：松山市北条下難波甲 1063

腰折山のエヒメアヤメ

高さ15～30センチの小型のアヤメ科の多年草で、毎年4月下旬頃に薄い紫色の花をつける。愛媛で最初に発見されたのでこの名がつけられた。腰折山は自生南限地帯として国の天然記念物に指定されている。

住：松山市北条下難波（腰折山）
☎：089-948-6891 松山市文化財課

第54番札所

近見山・宝鐘院

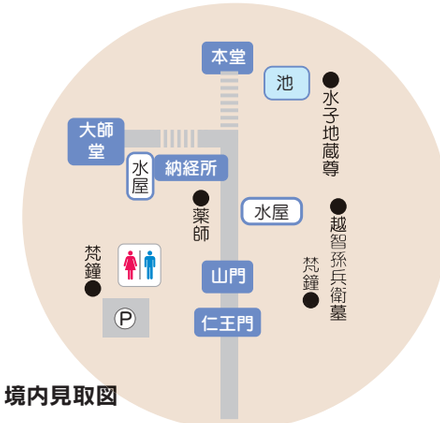
延命寺

梵鐘の伝説がある信仰と学問の道場

天平年間（729～749）、聖武天皇の勅願を受けた行基が、大日如来の分身とされる不動明王を今治市近見山に刻み安置したのが始まりといわれる。後に嵯峨天皇の勅願により、弘法大師が信仰と学問の中心道場として再興した。元々は弘法大師によって「圓明寺」と号されたが、第53番札所と同名のため、明治時代に入って俗称であった「延命寺」と改名した。

本堂は昭和3年（1928）に移転・新築された。総ケヤキ造りの山門は今治城城門のひとつで建造年代は不明であるが天明年間（1781～1789）の建造とも言い伝えられ、明治時代初期に今治城が取り壊された時、寺が譲り受けた。

山門左手の小山の上に「近見二郎」と名付けられた梵鐘がある。今治市の有形文化財で年一回、除夜の鐘のみ音色を聞ける。普段は山門に入ってすぐ右の「近見三郎」と名付けられた梵鐘が使用される。初代の梵鐘「近見太郎」は海中に沈んだと伝えられている。



境内見取図

本堂前の参道

宗　派	真言宗豊山派		
開　基	行基	本　尊	不動明王
御詠歌	くもりなき 鏡の縁となが むれば 残さず影を うつすものかな		
真　言	のうまく さんまんだ ばざらだん せんだ まかろしゃだ そわたや うんたらた かんまん		
住　所	今治市阿方甲 636		
電　話	0898-22-5696		
駐車場	20 台（志納金）	宿　坊	なし
交　通	車／今治 IC から国道 196 号を経由、約 10 分 バス／ JR 今治駅からせとうちバス阿方下車、徒歩約 6 分		

アクセスマップ

仁王門

大師堂

2 代目の梵鐘「近見二郎」

今治城から譲り受けた山門

大師堂に向かう石段

ちょっと寄り道

遍照院（へんじょういん）

弘法大師が自身の像を安置して厄除けの修法を行ったと伝えられる。毎年1月2月には厄除けの祈願の参拝者が多く訪れる。

住：今治市菊間町浜 89
☎：0898-54-3128
P：あり

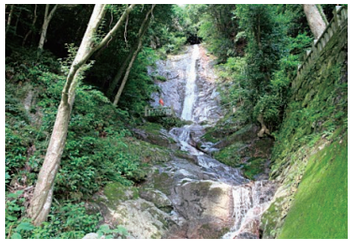
瓦のふるさと公園 かわら館

750年の伝統を持つ菊間瓦の歴史と文化、昔の瓦づくりの道具や行程を紹介している。菊間瓦を使って粘土細工も体験できる。

住：今治市菊間町浜 3067
☎：0898-54-5755
営：9:00 ～ 17:00　休：月曜日
料：大人 200 円、高校生以下 100 円
P：あり (85 台)

歌仙公園

歌仙公園には、歌仙の滝（新滝）と霧合の滝（古滝）の2つがあり、春は桜、秋は紅葉の景色が楽しめる。3月には「滝まつり」が開催される。



住：今治市菊間町松尾
☎：0898-54-3450
今治市菊間支所産業建設課
P：あり (10 台)

第55番札所

南光坊

別宮山・金剛院

大山祇神社の別宮は四国八十八ケ所唯一の「坊」

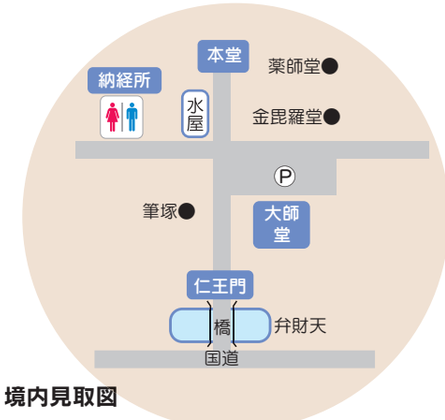
瀬戸内海の大三島にある大山祇神社の別当24坊の一つとして創建され、別宮大山祇神社に隣接する。「坊」とつく札所はここだけで、本尊の大通智勝如来は「法華経」に説かれる過去七仏（釈迦と釈迦以前に現れた仏）の一尊である。

大山祇神社は航海安全の神を祀っているが、海を渡らねばならず不便なため、大宝3年（703）、南光坊含む8つの坊がこの地に移された。後に、南光坊は、弘法大師が四国巡礼の際に霊場とした。

天正年間（1573～92）の長宗我部勢の兵火により堂宇は焼失、慶長5年（1600）、今治城を築いた藤堂高虎によって、南光坊だけは大山祇神社の別当寺として再建された。

昭和20年（1945）の大空襲により大師堂と金毘羅堂以外を焼失した。

本堂は昭和56年（1981）に再建。平成10年に新築された山門は迫力のある四天王が守護している。



境内見取図

四天王を配置した山門

宗　派	真言宗御室派		
開　基	行基	本　尊	大通智勝如来
御詠歌	このところ 三島に夢のさめぬれば 別宮とても 同じ垂迹		
真　言	なむ だいつうちしょうぶつ		
住　所	今治市別宮町 3-1		
電　話	0898-22-2916		
駐車場	20 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／今治 IC から国道 317 号を経由、約 10 分 JR ／ JR 今治駅から徒歩約 10 分		

アクセスマップ

本堂

大師堂

持国天（四天王）

山門横の境内に立つ寺名碑

別宮大山祇神社

ちょっと寄り道

大山祇（おおやまづみ）神社

大山積神を祭神とし、全国の山祇神社、三島神社の総本社。境内には樹齢約二六〇〇年の大楠（くすのき）がある。宝物館には国宝・重要文化財に指定された鎧・兜・刀剣類が数多く収蔵・展示されている。

住：今治市大三島町宮浦 3327
☎：0897-82-0032
大山祇神社社務所
P：あり（50 台）

能島周辺

能島（のしま）は伯方島と大島の間に位置する無人島。能島村上水軍の居城跡がある。村上水軍博物館の前から観光船で能島付近の「潮流体験」を体感できる。7月には水軍レース大会が開催される。

住：今治市宮窪町能島
☎：0897-86-2500
今治市役所宮窪支所 産業建設課

第56番札所

泰山寺（たいさんじ）

金輪山（きんりんざん）・勅王院（ちょくおういん）

洪水被害から村人を救った伝説が残る寺

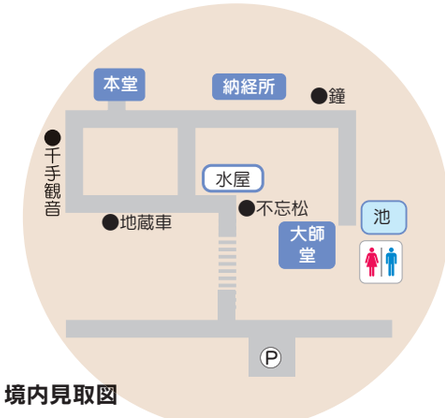
この地を流れる蒼社川（そうじゃ）は毎年梅雨の季節になると氾濫し、人命を奪う「人取川（ひとどり）」と恐れられた。弘仁（こうにん）6年（815）、この地を訪れた弘法大師は、苦しんでいる人々を助けようと村人たちと堤防を築き、「土砂加持（かじ）」の秘法を行ったところ、満願の日に延命地蔵菩薩が現れ、氾濫が治まった。

大師は、この地に「不忘（わすれず）の松」を植え、地蔵菩薩を刻んで本尊とし、堂宇（どう）を建立したという。

寺名は「延命地蔵経」の十大願の第一である「女人泰産（にょにんたいざん）（泰らかに産む）」から取ったと伝えられる。また「泰山」には、死霊が集まる泰山になぞらえ、亡者の安息を祈り、死霊を救済する意味もあるという。

その後、天長（てんちょう）元年（824）淳和（じゅんな）天皇の祈願所として七堂伽藍（しちどうがらん）を構え、10坊を持つ大寺として栄えたが、度重なる兵火で規模が縮小、金輪（こんりん）山の山頂から現在の地に移築された。

本堂は、安政元年（1854）に再建、大師堂は昭和60年に建立された。



境内見取図

境内の大師像

宗　派	真言宗醍醐派		
開　基	弘法大師	本　尊	地蔵菩薩
御詠歌	みな人の 詣りてやがて泰山寺 来世の引導 たのみおきつつ		
真　言	おん かかかび さんまえい そわか		
住　所	今治市小泉 1-9-18		
電　話	0898-22-5959		
駐車場	40 台（200 円）	宿　坊	なし
交　通	車／今治 IC から国道 196 号を経由、約 5 分 バス／ JR 今治駅からせとうちバス鈍川経由神子森行小泉下車、徒歩約 10 分		

アクセスマップ

今治城から移築された鐘楼

石垣

本堂

大師堂

不忘の松

ちょっと寄り道

今治城

慶長7年（1602）に城づくりの名人・藤堂高虎が築いた城。5層6階の天守閣や海水を堀に引き入れた海岸平城。「日本100名城」、「日本3大海城」にも選定されている

住：今治市通町 3-1-3
☎：0898-31-9233 今治城管理事務所
営：9:00 ～ 17:00
料：一般 500 円、学生 250 円
P：あり（40 台）

のまうまハイランド

日本最小の在来馬「野間馬」に乗馬したり、ウサギなど小動物と一緒に遊んだり、家族連れで楽しめる「人と動物のふれあい」をテーマにしたファミリーパーク。

住：今治市野間甲 8 番地
☎：0898-32-8155
営：10:00 ～ 18:00
（11 月～ 3 月は 17:00 まで）
休：火曜日、年末年始
料：無料　P：あり（150 台）

第57番札所

栄福寺（えいふくじ）

府頭山・無量寿院（ふとうざん・むりょうじゅいん）

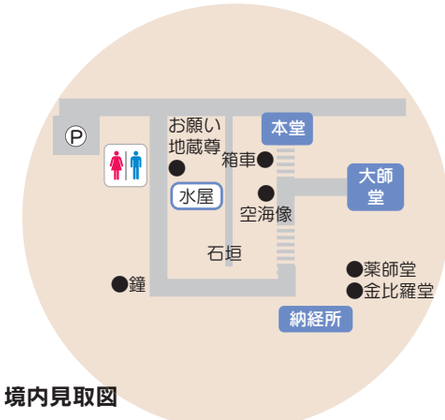
海上安全と病気平癒の信仰があつい寺

弘仁（こうにん）年間（８１０～８２４）、嵯峨（さが）天皇の勅願（ちょくがん）により、弘法大師が開基したといわれる。瀬戸内海沿岸の近海で海難事故が絶えず、大師が府頭山で海上安全の護摩（ごま）供養を行っていると満願の日に海の中から阿弥陀如来（あみだにょらい）像が出現した。そこで大師はその阿弥陀如来像を本尊とし堂宇（どう）を建立したといわれている。

貞観（じょうかん）元年（８５９）には、大安寺の行教（ぎょうきょう）上人（しょうにん）が暴風雨に遭遇しこの地に漂着。府頭山が山城国（やましろのくに）（京都府南東部）の男山（おとこやま）に似ているため、寺の境内に社殿を造り、神仏混合の勝岡（かとか）八幡宮を創建した。

その後、明治元年の神仏分離令によって寺と神社を分離、現在地に移転した。

本堂の回廊には、昭和８年（１９３３）、足の不自由な少年が巡拝中、転倒したが足が治癒したことから、手押の箱車と松葉杖を奉納した。それ以降、足腰守りの寺として病気平癒（へいゆ）の祈願をする人も多い。



境内見取図

境内の寺名碑には「ようおまいり」

宗　派	高野山真言宗		
開　基	弘法大師	本　尊	阿弥陀如来
御詠歌	この世には 弓矢を守る八幡なり 来世は 人を救う弥陀仏		
真　言	おん あみりた ていせい から うん		
住　所	今治市玉川町八幡甲 200		
電　話	0898-55-2432		
駐車場	13 台（志納 100 円）	宿　坊	なし
交　通	車／今治 IC から国道 196 号 317 号を経由、約 15 分 バス／JR 今治駅からせとうちバス松山市駅行大須木下車、徒歩約 25 分		

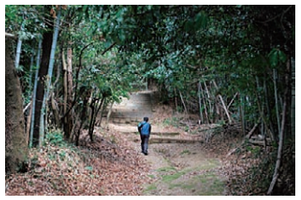
アクセスマップ

大師堂

本堂

少年が奉納した箱車

境内



石清水八幡宮の参道

ちょっと寄り道

石清水（いわしみず）八幡宮

栄福寺の参道の石段を山頂まで登ると石清水八幡宮にたどり着く。栄福寺と神仏混合の八幡宮であった。明治元年の神仏分離令によって栄福寺は現在の地に移転した。

住：今治市玉川町八幡乙 29
☎：0898-55-2539
P：あり（10 台）

糸山公園・来島海峡展望館

日本三大潮流の一つ来島海峡と全長四一〇五㍍の世界初の三連吊り橋・来島海峡大橋を一望できる絶景スポット。

住：今治市小浦町 2-5-2
☎：0898-41-5002　来島海峡展望館
営：9:00 ～ 18:00
料：無料　P：あり（90 台）

第58番札所

仙遊寺（せんゆうじ）

作礼山（されいざん）・千光院（せんこういん）

作礼山の仙人伝説が残る「おされさん」

天智（てんじ）天皇（662～672）の勅願（ちょくがん）により伊予国主・越智守興（おちもりおき）が堂宇を建立。本尊の千手観世音菩薩（せんじゅかんぜおんぼさつ）像は海から竜登（りゅうと）と川を上ってきた竜女が一刀三礼しながら彫像したという伝説から、山号を「作礼山（されいざん）」とした。

養老（ようろう）年間（717～724）から、阿坊（あぼう）仙人という高僧が40年間修行したが、ある日、雲と遊ぶかのように消えてしまったことから「仙遊寺」と呼ばれるようになった。

その後、弘法大師がこの地で修法した際、病に苦しむ人々を救済しようと井戸を掘り、荒廃した寺を再興した。参道に残る井戸は「お加持（かじ）の井戸」として多くの病人を救ったと伝えられている。

昭和22年の山火事で堂宇は全焼となったが、昭和28年（1953）に本堂、大師堂の順に再建された。

見晴らしのいい作礼山（標高320メートル）の山頂近くに建ち、「おされさん」の愛称で親しまれている。境内からは今治市街や瀬戸内海の島々が眺望できる。

境内見取図

紅葉と観音像

宗　派	高野山真言宗		
開　基	伊予国主・越智守興	本　尊	千手観世音菩薩
御詠歌	たちよりて 作礼の堂にやすみつつ 六字を唱え 経を読むべし		
真　言	おん ばざらたらま きりく		
住　所	今治市玉川町別所甲 483		
電　話	0898-55-2141		
駐車場	25台（400円）	宿　坊	あり（45人、要予約）
交　通	車／今治ICから国道196号317号を経由、約25分 バス／JR今治駅からせとうちバス松山市駅行大須木下車、徒歩約1時間		

アクセスマップ

境内からの眺望

大師堂

阿坊仙人の像

参道途中にある仁王門

参道の桜

ちょっと寄り道

住：今治市玉川町鈍川
P：あり

鈍川のわらイノシシ

今治市玉川町鈍川の田んぼに住民と玉川中学校の生徒の協力により稲わらの巨大イノシシを作成している。親子3匹のイノシシで、親の長さは約8メートル、高さは約4メートル、子は半分の大きさ。

やぐら（足でつく杵と臼）を
持ち込んでお接待用の餅をつく

お接待

お接待は地元の人が食べ物や飲み物などを提供する善意によるおもてなし。お接待を受けたお遍路はおれに「納札」を差し出すのがマナー。

仙遊寺では地元の方々等が月1回程度（1月～3月は除く）、ジュースや食べ物（餅・団子など）のお接待を行っている。

第59番札所

国分寺（こくぶんじ）

金光山（こんこうざん）・最勝院（さいしょういん）

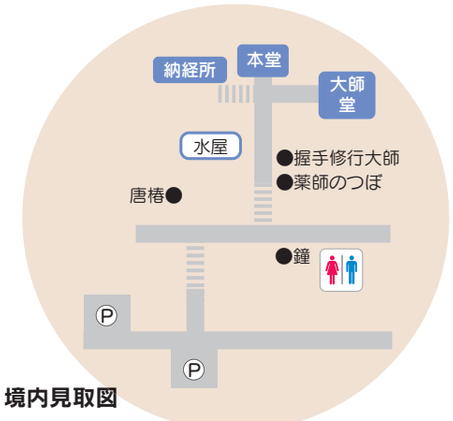
度重なる戦火を乗り越え、巨大な礎石の残る伊予の国分寺

天平（てんぴょう）13年（741）、聖武（しょうむ）天皇の勅願（ちょくがん）により全国に建立された国分寺の1つで行基（ぎょうき）が建立。当時は七堂伽藍（しちどうがらん）を備えた豪壮な寺であった。弘法大師は第3世住職・智法（ちほう）律師のとき訪れ、五大尊の絵像一幅を残し、霊場に定めたと伝えられている。また、弟子の真如（しんにょ）も2年ほど滞在し「法華経（ほけきょう）」の一部を写経して納めている。

その後、度重なる戦火で焼失と復興を繰り返し、現在の本堂は寛政元年（1789）43代目の恵向（えこう）上人が再建した。

当時の堂塔跡は、現在地から東へ百メートル離れた場所にあり、当時を偲ばせる巨大な礎石（そせき）が残っている。

境内入口の右手に握手大師がある。等身大の修行大師像で握手をして祈願をすると願い事が一つ叶うといわれている。像の右側には「薬師のつぼ」が置かれている。真言を唱えながら体の悪い部分に触れると治るといわれている。



境内見取図

願いがかなう握手修行大師像

宗　派	真言律宗		
開　基	行基	本　尊	薬師瑠璃光如来
御詠歌	守護のため 建ててあがむる国分寺 いよいよめぐむ 薬師なりけり		
真　言	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか		
住　所	今治市国分 4-1-33		
電　話	0898-48-0533		
駐車場	45台（200円）	宿　坊	なし
交　通	車／今治ICから国道196号を経由、約15分 バス／JR今治駅からせとうちバス桜井団地循環・国分寺下車、徒歩約2分		

アクセスマップ

本堂

大師堂

境内の様子

薬師のつぼ

参道

ちょっと寄り道

住：今治市古国分
☎：0898-36-1118
今治地方観光情報センター
P：あり（10台）

唐子浜の赤灯台

海の難所、来島海峡に明治35年（1902）、日本で5番目の洋式灯台として建設された鴻（こう）の瀬灯台は、住民有志の保存運動で昭和53年（1978）に現在地に移築された。

住：今治市孫兵衛作
☎：0898-36-1118
今治地方観光情報センター　P：なし

蛇越池のサギソウ

今治市孫兵衛作（まごべえさく）にある医王池（通称・蛇越池（じゃこしいけ））の湿地に咲くサギソウは8月上旬から9月中旬にかけて、シラサギが飛ぶ姿に似た白いかれんな花を咲かせる。

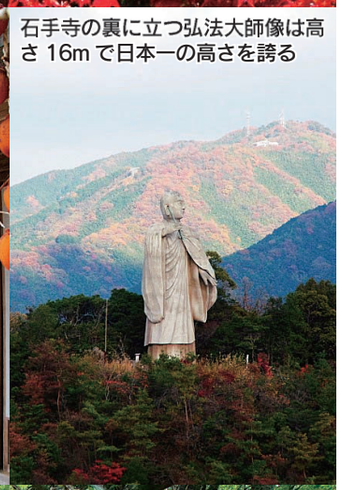
遍路道ギャラリー秋冬編

古い遍路道のひとつ篠山道は、
標高 1065 メートルの篠山を越える険しい道

秋の山道では、息をのむほどの美しい紅葉に出逢うことも

赤トンボは、野辺を彩る秋の宝石
（ナツアカネ）

干し柿は三間盆地の
庄屋屋敷の秋の風物詩


石手寺の裏に立つ弘法大師像は高
さ 16m で日本一の高さを誇る

一遍上人の窪寺閑室跡（松山市窪野町）にはヒガンバナが美しく咲く

冬の雑木林では、こんな出会いも（ジョウビタキ）

黄金色に実った稲穂のあぜ道を歩く（松山市久谷）

遍路道に立つ道しるべは、お遍路さんの強い味方

久万高原町の岩屋寺に向かう遍路道（八丁坂）
を歩くお遍路さん

太山寺では猫がお出迎え

愛媛の冬の風物詩、伊予柑の実る果樹園沿いを歩く

第60番札所

横峰寺（よこみねじ）

石鉄山（いしづちざん）・福智院（ふくちいん）

山岳信仰の霊地・石鎚山系に建つ深山の寺

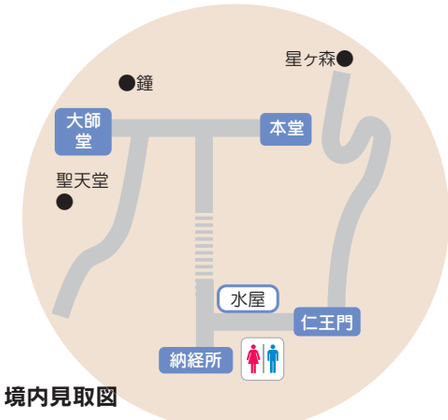
西日本の最高峰・石鎚山系（標高1982メートル）の中腹、標高750メートルの山中に建つ。

白雉（はくち）2年（651）、石鎚山の遥拝所（ようはいしょ）である星ヶ森で修行中の役行者（えんのぎょうじゃ）小角（おづぬ）は、石鎚山頂に蔵王権現（ざおうごんげん）が出現したため、その姿をシャクナゲに刻んで小堂に安置した。大同（だいどう）年間（806～810）には弘法大師も42歳の厄除け祈願のため訪れ、星ヶ森で星祭りの修行をしていたが、結願（けちがん）の日、再び蔵王権現が現れたため、大日如来（だいにちにょらい）を刻んで本尊とし霊場に定めたという。

その後、明治元年の神仏分離令で「石鎚山西遥拝所横峰社」となり、さらに明治42年（1909）に横峰寺として再興された。

八十八ヶ所霊場のうち、3番目の高さにあり、四国遍路における3番目の関所となる。

境内にはシャクナゲが植えられており、名所として名高い。5月の開花時期には多くのお遍路さんと観光客で賑わう。



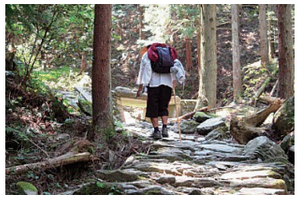
境内見取図

シャクナゲ

宗　派	真言宗御室派		
開　基	役行者小角	本　尊	大日如来
御詠歌	たて横に 峰や山辺に寺たてて あまねく人を 救うものかな		
真　言	おん あびらうんけん ばざら だとばん		
住　所	西条市小松町石鎚甲 2253		
電　話	0897-59-0142	宿　坊	なし
駐車場	50 台 (1850 円 林道通行料含む)		
交　通	車／いよ小松 IC から国道 11 号、県道 142 号を経由、約 60 分（冬期通行止あり） バス／JR 伊予西条駅からせとうちバス西之川または石鎚ロープウェイ行、横峰登山口下車。横峰寺登山バス山頂行、終点下車、徒歩約 15 分		

アクセスマップ

本堂



「遍路ころがし」と言われる遍路道

大師堂

仁王門

遍路道沿いに咲くシャガの花

ちょっと寄り道

星ヶ森の遥拝所

星ヶ森

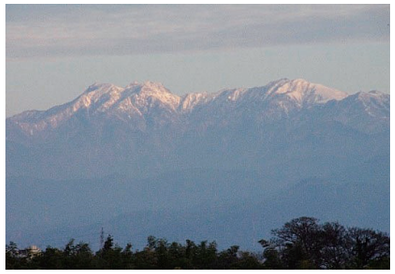
横峰寺の奥の院。弘法大師が星供（ほしく）の修行をしたといわれ、江戸中期の寛保2年（1742）建立の小さな「かねの鳥居」があり、そこから石鎚山を遥拝できる。

石鎚山を遥拝

石鎚山、天狗岳

石鎚山

山岳信仰の山として知られ日本七霊山の一つ。西日本最高峰である天狗岳と石鎚神社山頂社のある弥山（みせん）、そして南尖峰（なんせんぼう）の一連の山々を総称して石鎚山と呼ぶ。



住：西条市
☎：0897-52-1446
西条市役所 観光物産課

第61番札所

香園寺（こうおんじ）

梅檀山（せんだんさん）・教王院（きょうおういん）

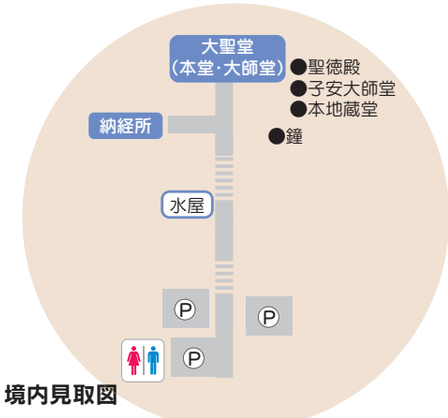
「子安の大師さん」と親しまれている近代的な寺

用明（ようめい）天皇（在位585～587）の病気平癒（へいゆ）を祈願して、聖徳太子が建立。

大同（だいどう）年間（806～810）、弘法大師が訪れた際、門前で苦しむ身重の女性のために大師が栴檀（せんだん）を焚き護摩修法を行って無事男の子を出産したという。この時、大師は本尊として大日如来（だいにちにょらい）の金像を納め、再び栴檀を焚いて「安産、子育て、身代わり、女人成仏」を祈る「四請（しせい）願（がん）」という護摩修法を行い、霊場として定めた。山号の「栴檀山」はこれに由来する。

大正時代、住職の山岡瑞園（ずいえん）師が「子安講」を始めた。子安大師の四請願を国内および海外に広めた。以来、「子安の大師さん」と親しまれている。

本尊と大師像は近代的なコンクリート建ての大聖堂の2階にあり、600余りの椅子席が設けられている。1階は大講堂となっており、各種の会合や研修会に利用されている。



境内見取図

大聖堂の内部

宗　派	真言宗御室派		
開　基	聖徳太子	本　尊	大日如来
御詠歌	後の世を 思えば詣れ香園寺 止めて止まらぬ 白滝の水		
真　言	おん あびらうんけん ばざら だとばん		
住　所	西条市小松町南川甲 19		
電　話	0898-72-3861		
駐車場	100台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山自動車道いよ小松ICから国道11号経由、約5分 JR／JR予讃線、伊予小松駅下車、徒歩約15分		

アクセスマップ

大聖堂に祀られている本尊の大日如来

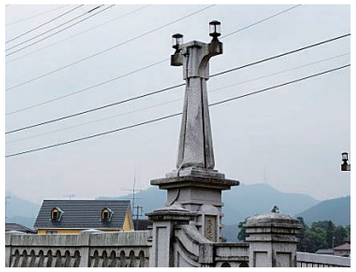
種田山頭火の句碑

本尊の隣に祀られている大師像

子安大師堂

境内の桜

ちょっと寄り道

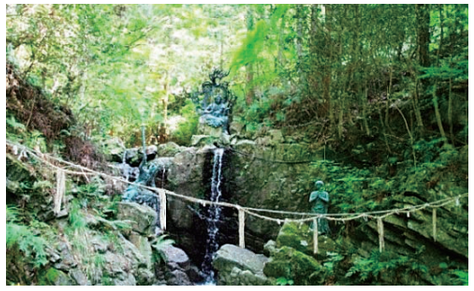


照明のついた親柱

住：西条市小松町新屋敷

小松橋

金毘羅街道の小松川にかかる小松橋は、大正15年完成の東予で最も古いコンクリート橋である。親柱には建設当時のガス灯を模した照明設備がとりつけられている。土木学会の「日本の近代土木遺産」のひとつに選ばれている。



住：西条市小松町南川乙61-6
☎：0898-72-5361　P：あり

白滝（香園寺奥の院）

昭和8年、香園寺住職・山岡瑞園師により創建された。本尊は不動明王で、両脇に「コンガラ」「セイタカ」二童子を従えている。滝に打たれる修行の場であるとともにもみじの名所となっている。

第62番札所

宝寿寺（ほうじゅじ）

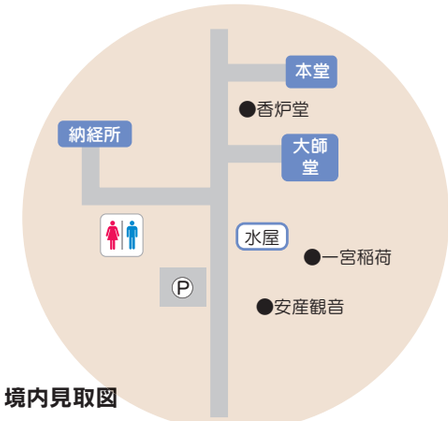
天養山（てんようざん）・観音院（かんおんいん）

「安産の観音様」のある伊予国の一宮

天平（てんぴょう）年間（729～749）、大己貴尊（おおなむちのみこと）の神託を受けた聖武（しょうむ）天皇が諸国に一宮を建立した。宝寿寺は伊予国一宮の法楽所（ほうらくじょ）として建立され、当初は金剛宝寺（こんごうほうじ）と称していた。

弘法大師がこの地を訪れた際、光明皇后の姿を型どった十一面観世音菩薩（かんぜおんぼさつ）を刻んで本尊とし、寺名を「宝寿寺」に改め、霊場とした。しかし、当時は近くを流れていた中山川がたびたび氾濫したため破損と再建を繰り返し、天養（てんよう）2年（1145）に再建されたので山号を「天養山」と改めた。天正13年（1585）に豊臣秀吉の四国征伐などの戦火に遭うものの、再建されたが、明治元年の神社分離令により廃寺となり、明治10年（1877）に再建された。

大師が難産に苦しむ国司越智氏の妻に境内に沸く玉の井の水を加持して与え、無事出産したことから、本尊は「安産の観音様」とされ、信仰を集めている。



境内見取図

一国一宮碑

宗　派	高野山真言宗		
開　基	聖武天皇	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	さみだれの あとに出でたる玉の井は 白坪なるや 一宮かは		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	西条市小松町新屋敷甲 428		
電　話	0898-72-2210		
駐車場	5台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山自動車道いよ小松ICから国道11号経由、約5分 JR／JR予讃線、伊予小松駅下車、徒歩約1分		

アクセスマップ

本堂

旧本堂

安産観音

大師堂

境内

ちょっと寄り道

古田のしだれ桜

住：西条市丹原町古田 1657
☎：0898-68-7275
P：あり（100台）

西山興隆寺

紅葉の名所として知られ、「もみじの西山興隆寺」と呼ばれている。春には桜が咲き誇り、紅葉、桜ともにシーズン中は多くの観光客で賑わう。四国別格20霊場第10番札所。

住：西条市丹原町今井 141-1
☎：0898-68-7371　P：あり

倒れた大楠の幹

生木（いきき）地蔵

弘法大師が一夜にして楠の大木に地蔵菩薩を刻んだ伝説がある。昭和29年、台風によって楠は倒れたが、地蔵菩薩は無事で、現在は本堂に祀られている。四国別格20霊場第11番札所。

第63番札所

吉祥寺

密教山・胎蔵院

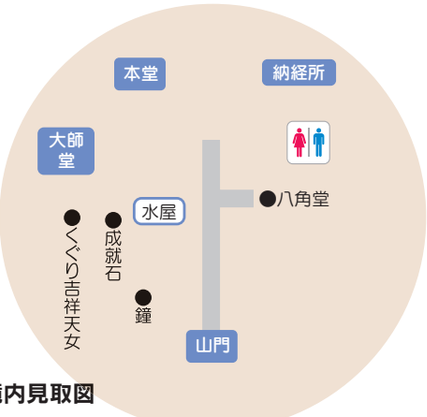
霊場で唯一、毘沙聞天を本尊とする寺

四国霊場で唯一、毘沙聞天を本尊としている。門柱には「四国唯一体 毘沙聞天王鎮座」の文字が刻まれている。

弘仁年間（810～824）、弘法大師が近くを通りかかった時、光を放つ檜を見つけ、本尊の毘沙聞天と脇侍の吉祥天と善膩師童子を刻み、霊場に定めたと伝えられている。

もともと、寺は近くの坂元山にあったが、天正13年（1585）、豊臣秀吉の四国征伐の兵火で全山を焼失し、万治2年（1659）、末寺の檜木寺と合併して現在地に移され再興した。境内にある八角堂には毘沙聞天を除く七福神のうち、六神が祀られている。

寺宝に高さ約30センチの「マリア観音像」（非公開）がある。純白の美しい高麗焼の像で、土佐沖で難破したイスパニア（スペイン）船の船長が、土佐の戦国大名、長宗我部元親に贈ったものといわれている。



境内見取図

くぐり吉祥天女像

宗　派	真言宗東寺派		
開　基	弘法大師	本　尊	毘沙聞天
御詠歌	身の中の 悪しき悲報をうちすてて みな吉祥を 望み祈れよ		
真　言	おん べいしらまんだや そわか		
住　所	西条市氷見乙 1048		
電　話	0897-57-8863		
駐車場	なし	宿　坊	なし
交　通	車／松山自動車道いよ小松 IC から国道 11 号経由、約 15 分 JR ／ JR 予讃線、伊予氷見駅下車、徒歩約 3 分		

アクセスマップ

本堂

山門

大師堂

金剛杖を通すと願いが叶う成就石

境内の花木

ちょっと寄り道

芝井の泉

弘法大師が杖を突くと水が湧きだしたという伝説のある泉。小さな大師堂が祀ってあり、地元では「水大師さん」、「お加持水」、「長寿水」などと呼ばれている。

住：西条市氷見
（氷見小学校南門の東約 150 メートル）
P：なし

坂元天満神社の大楠

楠の大木は県指定の天然記念物で、樹齢は千年前後。根回り17メートル、目通り10メートル、樹高25メートルで、枝張りは四方に20メートルを越し境内をほとんど覆うほどであり、その端正な樹形は県下一と称えられている。

境内を覆う楠の巨木

住：西条市坂元甲
P：なし

第64番札所

前神寺（まえがみじ）

石鉄山・金色院（いしづちざん・こんじきいん）

霊峰石鎚山に抱かれて佇む真言宗石鉄派の総本山

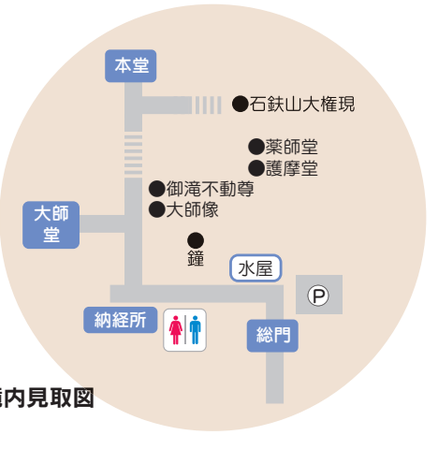
奈良時代の初め、役行者小角が石鎚山で修行中に釈迦如来と阿弥陀如来が石鉄蔵王権現となってあらわれ、その尊像を祀ったのが始まりという。その後、桓武天皇が病気平癒を祈願し、成就したことから七堂伽藍を建立し、金色院前神寺となる。

弘法大師は、山岳修験の聖地、石鎚山で修行し、求聞持法を修めて霊場に定めたという。その後も皇室との縁が深く、歴代天皇が帰依した。また、江戸時代には、西条藩主松平氏が東照宮を祀り、三葉葵の寺紋が許されている。

かつては石鎚山の別当寺であったが、明治元年の神仏分離令で廃寺。明治11年（1878）、現在地に移され、再興された。

さらに、昭和23年（1948）には真言宗御室派から独立し、真言宗石鉄派・石鉄山修験道の総本山となった。

毎年7月1日の石鎚山の「お山開き」には、数万人にのぼる白衣姿の信者たちが集まる。信徒は30万人を超すといわれる。



境内見取図

総門と桜

宗　派	真言宗石鉄派		
開　基	役行者小角	本　尊	阿弥陀如来
御詠歌	前は神後は仏 極楽の よろずの罪をくだく いしづち		
真　言	おん あみりた ていせい から うん		
住　所	西条市洲之内甲 1426		
電　話	0897-56-6995		
駐車場	30 台（無料）	宿　坊	なし
交　通	車／松山自動車道いよ小松 IC から国道 11 号経由、約 20 分 JR ／ JR 予讃線、伊予石鎚山駅下車、徒歩約 10 分		

大師堂

総門

本堂

1 円玉が張り付いた御滝不動尊

一枚岩で彫られた大師像

ちょっと寄り道

石鎚神社（本社）

霊峰「石鎚山」をご神体とする神社。「中宮・成就社」、「頂上社」、「土小屋遥拝殿」、「本社」の四社を総称して石鎚神社という。

住：西条市西田甲 797
☎：0897-55-4044
P：あり（約 390 台）

石鎚神社の本社

弘法水

海辺のうちぬき水。海底にある水源から清水を汲み上げている。弘法大師が杖を突くと水が湧きだしたという伝説が残る加持水。

住：西条市北浜北
☎：0897-52-1382
西条市役所 環境衛生課
P：なし

第65番札所

由霊山・慈尊院 三角寺

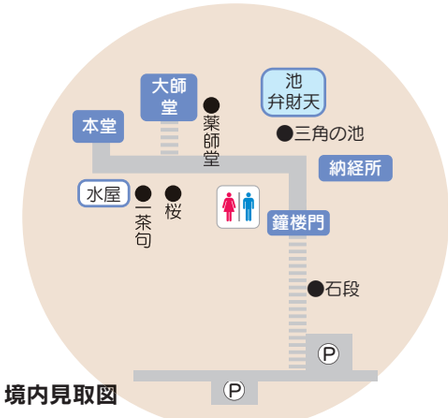
樹齢四百年の山桜が咲く伊予最後の寺

天平年間（729～749）、聖武天皇の勅願により、行基が弥勒菩薩の浄土を現して開基した。その後、弘仁6年（815）に弘法大師が訪れ、本尊の十一面観音と不動明王を刻み安置。さらに、三角の護摩壇を築いて21日間の護摩修法を行った。護摩壇の跡が「三角の池」の中島として現存し、寺名はこれに由来する。

後に嵯峨天皇（在位809～823）に厚い信仰を受け、七堂伽藍が建立されるなど栄えたが、天正年間（1573～1592）、兵火により堂宇を焼失。現在の本堂は、嘉永2年（1849）に再建され、昭和46年に修復されている。

本尊の十一面観音は安産、子授け、厄除けの観音として信仰されている。特に妊婦やその家族のお参りが多い。

寛政7年（1795）、この寺を訪れた小林一茶が樹齢300～400年ともいわれる山桜を「是でこそ登りかひ（甲斐）あり山桜」と詠んだ句碑が立つ。



境内見取図

本堂前の山桜

宗　派	高野山真言宗		
開　基	行基	本　尊	十一面観世音菩薩
御詠歌	おそろしや 三つの角にもいるならば 心をまろく 慈悲を念ぜよ		
真　言	おん まか きゃろにきゃ そわか		
住　所	四国中央市金田町三角寺甲 75		
電　話	0896-56-3065		
駐車場	30 台 (200 円)	宿　坊	なし
交　通	車／松山自動車道三島川之江 IC から国道 11 号線経由、約 20 分 バス／JR 伊予三島駅からせとうちバス新宮行、三角寺口下車、徒歩約 45 分		

アクセスマップ

鐘楼門前の 72 段の石段

大師堂

小林一茶の句碑

三角の池

本堂前の山桜

ちょっと寄り道

椿堂常福寺

弘法大師が大地に杖を突くと熱病が治まり、その杖から椿が芽吹き大きな椿が育ったという伝説が残る。別格20霊場第14番札所。

住：四国中央市川滝町椿堂
☎：0896-56-4523
P：あり（12 台）

仙龍寺

三角寺の奥の院。弘法大師が42歳の時に登山。21日間の護摩修行の後、満願の日に自らの姿を本尊とした。別格20霊場第13番札所。

住：四国中央市新宮町馬立 1200
☎：0896-72-2033
P：あり（10 台）

三度栗大師（西福寺）

弘法大師の加持力によって一年に三度実のなる栗の木の伝説がある。三栗山地蔵院とも呼ばれる。

住：四国中央土居町上野 954-2
☎：0896-74-6104
P：なし

誓松（延命寺）

弘法大師お手植え松（誓松）と伝えられ、傘状に東西30メートル南北20メートルあったが枯れてしまい、現在はその幹と枝が保存されている。別格20霊場第12番札所。

住：四国中央市土居町土居 895
☎：0896-74-2339
P：あり（20 台）

伊予の四国遍路ガイドブック

菩提の道場・愛媛の札所 26 ヶ寺めぐり

発　行　平成 28 年 7 月
発行者　公益財団法人 えひめ地域政策研究センター
愛媛県松山市宮西 1 丁目 5 番 19 号
愛媛県商工会連合会館 3 階
TEL 089 − 926 − 2200
FAX 089 − 926 − 2205

撮　影　谷川 昭司　中矢 具裕　玉矢 啓介
モデル　高橋 瑞季

公益財団法人 えひめ地域政策研究センター